



子  
作  
付

中村俊定文庫  
文庫 18  
528





志

小



Handwritten Japanese text in cursive style, including characters like 世平, 初, 詩哥, 出, 詩, 存, 珠, 形, 以.

Small vertical text on the left edge of the page.



あはれをさそひて  
まはれ形りえんて視聴  
言動の四箴 あはれ 恥  
ワルと斯 あはれ  
斯と伝 あはれ  
安永五初秋

半化房  
蘭更

丈夫の天よあは



まのまをいしめ

あはれの子のつら

まはれの子振人の

あはれの子のつら

あはれの子のつら

あはれの子のつら

あはれの子のつら

あはれの子のつら







あつたつたをふつた  
をふつたつた

安水おのや

ふつたつたのや

海

凍坡をん

自序

世に詠諧のふりしをる書  
古今述作おほりつたも  
四季の詞をあらと去る  
切子等れ辨りしや  
勺佐れ便むつたもの  
抑ちりあふ誹諧連哥  
のふたえをいれ勿論  
四象れ感情を伝ふところ  
詩歌連俳ともふん雅と  
一形り今に書いれたて  
多びうらむ英哲れ正聲  
重ぬけりれを喜ぶと遊可



豪放飄逸此乃描んで  
 まつ童蒙のさうさう  
 勺は茶さうねたうりも  
 おらんくつ濱の真砂を  
 かんくさあえうくあく書  
 つゝの曹植う七歩は術は  
 傳人さうさうを詠詠の早  
 海らうと贅一二三五  
 門人不與うさ

秋里海夕



誹諧早作傳目錄

- 一 誹諧之紀原
- 一 上古之詭諧
- 一 二僊之像
- 一 句作之大意

○天象之辭テシキヤノコトバ  
從其物

虹ニギハヤヒ 露ツユ 雨アメ 星ホシ 天アマ 日ヒ 月ツキ 目メ  
 雲クモ 霞カスミ 霜シロ 霰アサギ 霧キリ 風カゼ  
 電イナズナ 霰アサギ 霧キリ 風カゼ  
 煙ケリ 雷カミナリ 霜シロ 霰アサギ 霧キリ 風カゼ  
 電イナズナ 霰アサギ 霧キリ 風カゼ



○四時之辭 春 夏 秋 冬 十三丁日

元日 人日 上元日

子春 春衣 上巳

以干 春色 當春

初夜 文衣 盂嘉

端午 夏之夜 冬暑

初秋 七夕 秋の凡

秋の暑 重九 暮秋

初冬 冬至 苦寒

年の名 地理之辭 山所止四丁目

○地理之辭 山所止四丁目

山 谷 川

海 湖 池

浦 江 川

井 池 泉

氷 石 岩 巖

日本 帝都 内裏

城跡 市 里

道 橋 関

野 驛 亭 樓閣

救苦屋 山居 村居 間居 貧居

山家 漢家 酒家

○神祇之辭 名所 四十三丁目

神代 太掌會 伊勢神

石原 水 松尾

平畑 稲荷 春日

位吉 龍田 日吉



梅宮 吉園 祇園  
 北野 貴布祢 玉津島  
 今宮 生田 葛城  
 高砂 野宮 布留  
 高津 三ノ浦 比の宮  
 諏訪 塩竈 松崎  
 大社 巖嶋 生玉  
 西の宮 藤澤 吉備津  
 三熊野 竹生湯 愛宕  
 熱田 宇佐 宰府  
 菅寄 日光 石寶殿  
 高津 象澤 鶴ヶ岡  
 白山 氣比 富士山  
 檟通 御香長 五條天神

番取 御靈 葎の森  
 丹生 大系 御

○釋教之辭 名所 五十二目

佛 僧 寺  
 比叡山 三井寺 法隆寺  
 高野山 鞍馬 石山寺  
 吉野山 初瀬 法海寺  
 法見寺 天橋立 須賀寺  
 天王寺 仁和寺 東大寺  
 法隆寺 小倉 大佛殿  
 三三堂 真如堂 高野山  
 月輪 壬生寺 法隆寺  
 平等院 空也堂 善光寺  
 東福寺 金閣寺 銀閣寺



智恩院本願寺興福寺

當上も八島も因幡堂

六白堂黒谷 百万遍

誓願寺法宗寺園寺

珍白寺高基寺黄蘗

花のち花安寺二月堂

廣徳寺多辺お六丁目

多邊の詞ちか

○人倫之辭 六十二目

秀才 仙人 高傑 賢人

武人 武士 儒師

詩人 歌人 詠諧師

醫師 伶人 能方ま

畫師 山伏 相人

ト者 農人 樵夫

牧童 漁父 獵人

商人 美人 戀の詞ちか

傾城遊女 歌多妓 芝居

相撲 放下師

○草木之辭 七十二目

福壽州梅 紅梅 榎

柳 花 櫻 落花

桃の花 梨の花 山吹

海棠花 薔躑 沉丁花

藤 金錢花 蕨

芥 菫 卯の花

牡丹 芍薬 杜あ

薔薇 罌粟花 合歡花



西橋 美人中 萱草  
 菖蒲 百合花 苔の花  
 萍の花 凡蘭 石菖蒲  
 あま 百日紅 玉簪花  
 凌宵 ありこ 夕月  
 蓮の花 蒲  
 木犀 芙蓉 桐  
 蘭 大木 薺  
 木槿 女帝花 萩  
 萩 夕月 桔梗  
 薯蓣 薺 鶏冠花  
 稲 葡萄 芦の花  
 菊 椎 柿  
 栗 荔枝 松茸

紅紫 山茶花 仙花  
 竹 筍 松

○氣形之辭 九十七目

鳳凰 孔雀 綠鳥  
 比翼鳥 鶴 鸚鵡  
 風鳥 鵬 鸞  
 百千鳥 鶯  
 雉 燕 雲雀  
 白鳥 鷺 子鳥  
 駒 鷹 杜鵑  
 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣  
 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

目錄  
 九











茶チヤ帶オビ

酒サケ

餅モチ

凡例

一 本書のちり宛ふ古人は  
句の中一二と擧げ其  
時代は凡フツ額イシと志して童ドウ  
蒙モウ初シを此コノ引ヒキと依ヨ

一 句依の法は先師の教ふ  
ところ其コノ所トコロを記キし  
て一ヒトに名ナ師シと志シて  
依ヨきとらむる也

一 天象テンゾウ衣イ食シキをその部ブと  
分ワぶと云イハふも強カチ部ブと云イハふ  
名目ナメ不フかたはへて凡フツ親シン教キョウ  
の部ブ高野山タカノヤマ人倫ニンリンの部ブ  
仙人センプン等トウ何ナニも非ヒ親シン教キョウ非ヒ







作傳

卷三

# 誹諧早作傳

秋里湘夕編

といふ誹諧といふ古和歌系  
 ありて其始久しに及ぶは  
 古今後拾遺コキンゴレイイに撰センりしき  
 長頭丸の曰君の代の久しに  
 後ひのきるるを和歌と連ツぎも  
 誹諧も聊カかるものありて  
 故ナに地道ナハ各別ナのびつり  
 傳ツき及ツるに未レ代ナを  
 其徳和ナきもくも廣クくいふ  
 といふ形ナれを賦ナきしひは  
 といふにナりていふナりていふナり







平忠盛  
妹が子公をいふてお成り成る

たより立ててやあひふせよ  
白河院御製あり

灯をたきわすれし  
待賢門院堀川  
丁子かいらのまきや白くらん

黄門定家卿  
散花をよきくけり山嵐が

大納言為世卿  
多様花の他よりあまふぬ

長明  
くの出たされぬへき山嵐が

北條時政  
をり山のつら子さかあふなり

源頼朝公  
むちうういふ妹かたぶん

梶原景時  
鞠子河もれをばあつらふ

保頼公  
かてりいをも人やあつらふ

白田山重忠  
頼朝が軍の名やり川

西三條實澄卿  
友山やおとみあつらふ

近衛殿下信尋公  
山風を揺ふさあつらふ

西武  
五月雨ふようちあつらふ

名系らうともく是八時なる



小田原やあまのひのきくお前あそ

太閤秀吉公

柴田より勝川信俊をつれ代

ありし

あまのひのきくお前あそ

長崎北野衛門宗

芦原の約の公およ秋の月

宗一休

梅の花つれよちりし字哉

你州元政

口はあふ貴妃とあそ女あは

澤菴和尚

草よ木よあふ志あはくさのあ

槃珪和尚

空あそく雨のをれ秋のそく

雨乞の吟  
牡丹花肖柏

淋しきの友陸ふある火桶うか

瀬古藤田春慶

あそくちの柏子も都曇灯笼あ

林道春

詩の韻れへうあそくあそくあ

石川丈山

あそくあそくあそくあそくあ

千利休

あそくあそくあそくあそくあ

宇都宮曲的

あそくあそくあそくあそくあ

人ーら

あそくあそくあそくあそくあ

ソロリ

あそくあそくあそくあそくあ

壘川親當

あそくあそくあそくあそくあ

心敬僧都

あそくあそくあそくあそくあ

宗長



保井元佐  
手くた筆ふみくろく

里村紹巴  
梅の花をさうはら

持常信  
名古りう

太閤朝鮮出陣の時  
細川玄吉

かたらの其みみれきま

宗祇法師

あまをたふらふおひて

守武

元朝や非代のふおと

宗鑑

元日のるおふえん不二の山

松永自徳屋



道た

木槿ハ

馬

吟れ



芭蕉翁



父母亦此の春を春 六圃  
何と云ふもあつてはるまじき 貞室  
と銘や春あつてはるまじき 李吟  
朝陽より傾城白く 言水  
芍薬や唐の畠に足る心 鞭石

声のれは猿の歯白く 其角  
古を亦有来たる牡丹丸 嵐雪  
有明ふぬ向うに 去來  
三月月かあつては 近江星 素堂  
谷あや石を詠む山極 鬼貫

此外ハ家々の句集あり  
爰ハ畧せん

句法作りの法

一 初心の輩句法後と感ぐ  
古人れ句法常々吟むと  
又古人の中ふも古凡近體の  
品あり

一 古人の句集は多く諸人  
とて自ら法後との必を  
も必佳境に入らずに初心の  
輩ハいふも句の数を多く修る  
べし多く修る句調もく  
働きてふと良切字あつて  
自在ふちるお形り

一 句の数多く修るも古人の句  
法多く吟むる句體



く勺意あるをくふし可  
あは博く見達者小修  
かろしやん

一初心の程を歩きしう深見不  
案一入海功達の後ハ又

深見より歩き小案一出べ  
これ先哲の教なり

一人一生の中好勺ををり  
まき形はあり後ホ一二勺

の佳勺少ても後世まで名は  
傳ふ人あり然ると人の好勺

れ全體と竊せり少て不  
たかして我勺とまきは及

の誠形かて慎むべし

### 誹諧早作傳

秋里湘夕編

### 天象部

○天 テシ 天上の氣升て天とあり

天ノ高サ北七方八千九百七十里

地ノ深サ五万九千四十九里

太極四象宇宙乾坤

大圓文選六氣九傳天運

蟻磨 日月天をめぐりて蟻は

九天造化 森羅萬象

天長地久 久きマレ

空 頂山 渾天儀



光 日月星 クワ 天の戸 ウミ 大虚 タイキョ

文帝 フシテイ 漢の文帝 ウミ 文帝 ウミ 文帝 ウミ

井小坐 イノコ 天と觀 ウミ 井小坐 ウミ

秦 シ 天と論 ウミ 秦 ウミ 天と論 ウミ

頭 ウミ 天と論 ウミ 頭 ウミ 天と論 ウミ

顧 ウミ 天と論 ウミ 顧 ウミ 天と論 ウミ

温 ウミ 天と論 ウミ 温 ウミ 天と論 ウミ

聽 ウミ 天と論 ウミ 聽 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

天 ウミ 天と論 ウミ 天 ウミ 天と論 ウミ

金關 キンケツ 神異經 ウミ 天さか ウミ

○日 太陽の精なり

日月に徑千里 白虎通

太陽の宗 唐文志 陽徳

赤名の日と夾む 楚傳哀公六年

流虹日と貫く 子荆軻とつら

行 晝夜千里

行 晝夜千里

朝やけ

氷れぬま

陽を日 燄戲る

紅塵 土埃りの夕日小

斜陽 星白



窓に梅咲。花の唇。柳眠。

日影形。玉のけしき。

おぐの入り。遅遅。鶴眠。

蜂の聲。石燦。やぶらぶ

布曝に日傘。葵顔く

日やけ。あゆ。桐く

襟を。あざしく。あつらふ

志の欠。百千名。古今ノ

秋宵のあふ。短多目や

お後の玉散る。短と愁ふ

来月を冬ら。多部をれ夕日。

日のちりく。梅さけ。夕日

麗。朝日。秋の日。法の朝日

朝日すのろ

○月 太陰の程あり

鶺鴒。魏武帝九月月照る

あつらふ。星稀あつらふ鳥鵲南

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ

あつらふ。ツキ



白<sup>ニ</sup>な<sup>テ</sup>て。窓<sup>ニ</sup>入<sup>リ</sup>月。馬<sup>カ</sup>を  
自<sup>カ</sup>悲<sup>シ</sup>し。海<sup>ニ</sup>入<sup>リ</sup>閑<sup>カ</sup>あ<sup>ハ</sup>ぬ。  
心<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>傾<sup>ク</sup>。一<sup>リ</sup>偏<sup>ニ</sup>滿<sup>ツ</sup>。松<sup>ノ</sup>の<sup>葉</sup>。  
鏡<sup>カ</sup>を<sup>ミ</sup>。あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>。星<sup>ホ</sup>掃<sup>レ</sup>。  
月<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>碎<sup>ル</sup>。三<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>界<sup>ノ</sup>。毎<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>り。  
松<sup>ノ</sup>の<sup>葉</sup>。池<sup>ノ</sup>の<sup>水</sup>。衣<sup>ノ</sup>。  
流<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>進<sup>ム</sup>。海<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。松<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。  
夏<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。千<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。秋<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。  
破<sup>キ</sup>鏡<sup>ヲ</sup>。月<sup>ノ</sup>挂<sup>ラ</sup>。重<sup>ク</sup>お<sup>ハ</sup>く  
白<sup>ノ</sup>の<sup>客</sup>。月<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>歩<sup>ム</sup>。二<sup>七</sup>の<sup>秋</sup>。  
三<sup>ノ</sup>又<sup>ノ</sup>秋<sup>ノ</sup>。二<sup>八</sup>の<sup>秋</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。  
中<sup>ノ</sup>秋<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。良<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>。名<sup>ノ</sup>月。  
白<sup>ノ</sup>の<sup>客</sup>。太<sup>ク</sup>液<sup>池</sup>。開<sup>元</sup>遺<sup>事</sup>  
三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。

吹<sup>レ</sup>凡<sup>ノ</sup>の<sup>相</sup>子。海<sup>ノ</sup>老<sup>者</sup>。海<sup>ノ</sup>老<sup>者</sup>。海<sup>ノ</sup>老<sup>者</sup>。  
松<sup>ノ</sup>の<sup>葉</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。  
松<sup>ノ</sup>の<sup>葉</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。三<sup>ノ</sup>の<sup>月</sup>。

○星<sup>ホ</sup>。陽<sup>光</sup>。其<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>日<sup>ノ</sup>生<sup>テ</sup>星<sup>ト</sup>。星<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>方<sup>ク</sup>。  
五星<sup>東</sup>井<sup>ノ</sup>聚<sup>ル</sup>。前<sup>高</sup>帝<sup>紀</sup>。  
箕<sup>ノ</sup>星<sup>ハ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。  
畢<sup>ノ</sup>星<sup>ハ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。  
景<sup>ノ</sup>星<sup>ハ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。賢<sup>人</sup>位<sup>ヲ</sup>。  
南<sup>極</sup>星<sup>ハ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。賢<sup>人</sup>位<sup>ヲ</sup>。  
二十八<sup>宿</sup>。老<sup>人</sup>星<sup>ハ</sup>。北<sup>斗</sup>。  
好<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>。星<sup>ノ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。  
月<sup>ノ</sup>を<sup>照</sup>す。星<sup>ノ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。  
石<sup>ノ</sup>升<sup>ル</sup>。星<sup>ノ</sup>ハ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>好<sup>ム</sup>。



天女孫漢天文志三曰

織女天女孫なり

去る星。星のひ。星の影ナキ

星のやどり。星のひり。二星

牽牛織女ケンギウシヨクシヨ。北川。七夕

兩夜の星。星のちや

星と戴イタく。お這ヨバの星

○云クモ山の氣なり

云ハシタカ從シタカふ 易

鵬ホウヨク翼シヨク 莊子三曰大鵬フク翼シヨク

相如シヨクシヨク云クモ以シ凌シぐ 如飄ハク然シ

一シく凌シ雲クモの氣キあり

雲のひハ 淵明の詩曰隻雲

赤シノ雲メ 樓ヨコクモ 雲クモ 雲クモ

無心ムシン 孤雲コウン 向ムカ 村ムラ

夕タタ 目メ 眺トウ 日ヒ 眺トウ

雲の仗シヨク 心シン 閑カン あり 雲クモ あり

雲クモ のたタ 雲クモ の夕タタ 雲クモ あり

雲クモ の離リ 空カラ あり 雲クモ あり

雲クモ の都ト 雲クモ の山ヤマ 雲クモ の波ハ

丹波タニハ 太郎タロウ 雲クモ のまマ 雲クモ のまマ

信シノ 信シノ 信シノ 次ジ 郎ロウ 雲クモ のまマ

雲クモ の井イ 雲クモ の井イ

雲クモ の山ヤマ 雲クモ の山ヤマ

雲クモ の山ヤマ 雲クモ の山ヤマ

雲クモ の山ヤマ 雲クモ の山ヤマ

雲クモ の山ヤマ 雲クモ の山ヤマ

慶ケイ 雲クモ 煙ケリ 史シ 記キ



祥き。一片。溪と度る  
をと顧る

○風 天地の使あり

鶴退く 九傳白六鶴飛て  
吹はぬあり

虎嘯く 淮南子ハ虎嘯て  
凡生ハ虎ハ陽歎

竹生歌耳小入 馮文度

舜五弦れ琴今ハ彈一て

南凡ハ詩と歌ハ家語

白くもてみぬハ 漢武帝の辭

藤北来石枕 東坡 竹凡の涼ハ

君子ハ徳ハ凡あり

春凡。花と吹 杜詩

春の凡。花散る。春凡

花の春送る。春柳の凡。

凍解る春凡 春柳の凡。

花信の凡。竹の凡。凡暮る。

秋凡。秋の凡。秋凡

菊飄る。凡の傍る。春凡

志の春凡ハ 砧の春凡

春吹。吹凡。春凡

凡の宮。ちとく。凡の安。

思ふ春凡。春凡

神の春凡。春凡



凡の通ひ路。芳の枯葉は。木のもぎ散る。志あとの凡。凡のこま。阿形。吹凡。萩の葉と分凡。山凡。家の凡。神凡。志す凡。と。や。巽。初。山。凡。倍。夕。富士。甲斐根の祢。山市。眩嵐。木。新。小。つ。松。枚。仲。風。

○雨 陰陽和して夏と云

天兵を降く。滅す。周武王紂。雨。王の日。天兵を降く。

雨降る。雄と呼ぶ。

五日。凡。十日。雨。太平の

入日。凡。十日。雨。條と。鳴る。雨。塊と破る。と。必。至。

寶珠の瑞。驟雨と。殿前。と。珠。と。

林雨。驟雨。おの。公。雨。と。喜ぶ。雨。と。行。

暗。を。行。あ。夕。五。

梅雨。入り。夏。と。み。雨。の。足。客中。秋。の。夏。

雨の足。客中。秋の夏。



竹子響く。柳を飾る

花を偲む。庚申雨

甲子雨。雨冷。眠と夢を

高枕窓より。夏だれ

をよびのる。橋より川岸

雨乞の庭。小町の方。酒の力

虹と酒と。雨の宮。けむ

小ねり。水引。一時ぬ

一樹の宿り。走り入。初引

村いさ。仲の志。夕引

おの糸。採の集つて

色紙。水引。壁。故流る

横る。志。心。お。初ら登

だま。山。星の光。る。雨。あま

さみた。お。お。枕。月。は。あ。あ

金。此。より。お。か。故。を。い。ぬ。心

馬。ハ。ぬ。牛。夕。日。人。も。年。い

け。あ。る。の。は。い。ち。ち。う。り

舟。人。お。ぬ。れ。て

新。し。志。ぐ。れ

○霞。あ。き。升。り。蒸。し。て

日。小。冠。と。謝。靈。運

赤。霞。金。光。波。動。李白

丹。霞。月。は。夾。む。文。選

遠。川。明。あり。韋。應。物

海。凡。吹。断。ふ。晚。望

夕。色。山。ふ。つ。た。る。初。霞

八。重。を。履。雲。は。何。り。し。む



勝友ヨ仙衣センエ。りりカとむ

戸の心サホヒメへ依保口傳姫リ

里ホラの心。戸の門ホラ仙家

戸の赤ホふカくクた。白ホ紙カとカとカ

○霧キリ 而邪ニの氣キありキ陰キの功キ

神井シセイ旁キリひキあキはキ陳留チンリウ傳チン

金霧キンム吹フク平沙ヘイサ千里センリ金キン

八里ハチリの旁キリ後漢ゴカン張チヤウ指シ八道ハチダウ

大澤ダイタク不フ迷メイ曹公ソウコウ赤壁セキの

山市サニシ暗カク。うウとトとトとト

空カラ立タ升シヨウるル。空カラ乃ノ乃ノ乃ノ

川カハきキりリ。空カラ乃ノ乃ノ乃ノ

日ヒ以イ限ゲン。願ネガとトとトとト

空カラ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ

きキりリ此ココのノ氣キ。胸ムネのノたタりリ

○露ツユ 陰陽インヨウのノ氣キありキ

鶴ツル言コトむム八月ハチグヒ白シロ雲クモのノ下ノ

樽タン飲ヒキむム。説セツ苑エン二ニ日ニチ採サイ林リン中チュウ

とト乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ

新シン龍リウのノ家カ。空カラ乃ノ乃ノ乃ノ



菊の香。芋の葉は茂。  
 萩の葉。牡丹の夕暮。あま  
 蘭の葉白ふ。あま。あま  
 花の玉。月も宿り  
 稲もあまの葉。あまのやどり  
 星の葉。箱負鳥。古  
 神の葉。あまの葉

○霜 霜を交してあまの  
 花の葉。青州の屋上の瓦は  
 牡丹の葉。茶海棠の葉  
 花の玉。あまの葉  
 中子。あまの葉  
 鹿の葉。あまの葉  
 木の子。あまの葉  
 崔豹古今注

馬啼子踐を。莊子二曰馬  
 とへい。あまの葉  
 花の葉。あまの葉  
 酒練を送る。あまの葉  
 塵初を。あまの葉  
 圍爐裏。あまの葉  
 吉女淮南子

○霰 言降りてあまの  
 花の葉。あまの葉  
 散乱する。あまの葉  
 珠の葉。あまの葉  
 眠る。あまの葉



海へぬるらん

ユキ  
○雪 五鼓の糝なり

書と映を 晋孫康家貧  
書に映を 晋孫康家貧  
書に映を 晋孫康家貧

雪ハ豊年トシ嘉瑞

狐の喪に被る 齊の景公

狐自の喪と云く寒やうんといふ  
見女子此日飢寒一たるりの子

六のそ花 脚本の肥おほくハ赤

越州ハ大吠る 南越州の大者

言アむとんはらうくくおほる

ユキニツ 陶鼓李士

ユキニツ 陶鼓李士

衣ハ集り 宋の大明年中ハ

右將軍謝莊ハ衣ハ衣子集り

王天運ハ令一ハ勅律と伐一

歳ハ貢と献らんとお天運ハ

三千人と虜やうて術者ハ

大者とせんと行くと百里ハ

鶴毛蝶粉 石曼卿詩

高ハ小ハ之ハ 達摩大師ハ

僧夜大者ハあつてあつて

香爐峯 神ろち掛

高ハけし。高見ハ高ハ



窓の秘座。ちのち  
ちの夕水。爐と圍ム  
風ふあふ。ちのお。ちか。  
ちの名。ちの名と凌ぐ。  
ち驚く。ちとち。  
ち心ち備フ。梁たりむち。  
ち川とち。ちのち。  
ち解ち。二月の名。  
ちのち。ちのち。  
ちをち。ちのち。  
ちをち。三千銀界。  
ちをち。戸と閉ち。  
飄飄。ちのちのちの

カミナリ  
○雷は陽感して雷く  
龍は起れ韓傭雨と送る。  
芭蕉破る。ちおち。  
ちをち。ち驚く。雷車  
天地の鼓。ちハ柱とち  
天外のち。千里の車轉く

イナウ  
○電は陽辛つて足と  
王戎が眼。日とち。ち  
火鏡とち。空の靴  
靈華。楚詞。月光のち。  
天のち。ちをち。  
ちとち。月とち。



園のかり。きのやと東  
み位のかり。くさくさ

○虹 ニシ  
虹をみよめてりりる  
まきおの二色あり

王 孔子春秋孝經  
王の化を 孔子春秋孝經

天 天不考るを化  
天不考るを化 天不考るを化

美人 美人を化  
美人 美人を化

俗 俗呼んで美人  
俗呼んで美人 俗呼んで美人

五 五多の  
五多の 五多の

井 井を飲  
井を飲 井を飲

長 長橋  
長橋 長橋

夕 夕陽  
夕陽 夕陽

雲 雲を映  
雲を映 雲を映

○煙 ケリ

柳 柳の  
柳の 柳の

孤 孤村  
孤村 孤村

井 井を  
井を 井を

松 松の  
松の 松の

民 民の  
民の 民の

室 室の  
室の 室の

胸 胸の  
胸の 胸の

白 白煙  
白煙 白煙

煙 煙の  
煙の 煙の

煙 煙の  
煙の 煙の



後乃始多う。はなのさうり  
一片の烟。あまのさうり  
あべのさうり

四時部

△春 春ハ春蟲形リ多クお春蟲  
生シて則運動ス日

○元日 東陸をゆく足は春

三朝 年の朝日れ朝月れ朝

仙木 六帖又曰元日桃符と  
造ッて戸ふらりり

鐘馗 唐明皇吳道子  
詔して圖セ

年手 白樂天カ詩

七松 折ラ 歳首ハ松ノ枝  
とあ男ハセツ

傳生酒 法苑珠林ニ出

穀 月令ニ曰天子  
元日ハ穀

雀 放ハ 趙王正朝ハ  
生雀と放ツ

白獸樽 魏書ニ出

天地のまゝ。一四海。又一年。

年と得る。石葉酒

四始。首祚。初陽

孟春。茶と運ふ

歳華。元旦ハ天地の初。

一葉の風光。遠く九天。

栢葉ハ孟。茶壽の觴。

新表天外より来る



初日をむ山。四海のま  
御代のま。とりのま  
何れ玉のま。新のま  
四方れ春。青陽  
とりのま。よ水  
とりのま。よ花のま  
福寿州。扇賣  
蛤賣。玉。お  
茶日。今朝の春  
くまのま。聖節  
まの月。鏡餅  
つり葉。齒朶  
屠蘇。歳徳神  
元方糊。よ餅

遠草不。檜の  
八百神の國。内侍所  
おがざり。門中川  
かけ網。大ぬ  
初曆開く。とりのま  
えりまの。かこり木不  
とまのま。あや  
かまのま。あや  
山里。佛とる神  
万葉匠。そ  
まの曙。まのま  
いろはま。神  
あまのま。ねのま  
まのま。まのま  
寂し。かまのま。まのま  
中極や極。餅  
人の國。二枚のま  
まのま。まのま



○人日 七日正月

金縷の人の七種の菜を以て

金とちりて宛て人々と相送る

是を彩年の賀とせん

梅額ヒタイヲツ 宋の武帝の

含章宮の梅を臥したまふ

詩と柳堂ヨ寄ル 高適

人日の詩と杜子美を送る

菜摘。君のたまへ

菜摘ナツミ 君のたまへ

菜摘ナツミ 君のたまへ

菜摘ナツミ 君のたまへ

○上元日 正月十五日

膏粥カウシユク 張成チヤウセイの者地

膏粥カウシユク 神カミ告ツケをうけて

膏粥カウシユク 神カミ告ツケをうけて

燈市トウジ 一天の星ホシ 火蛾カガ

千炬燭チンキョク 富貧フヒン 一イツ 燈トウ

踏歌タツカ 鼓聲コノネ 云クモ 入イ

○早春

沙関コホリ 南朝ミナナカ の梅ウメ さく。

梅ウメ 糖ドウ ふフ 幸コト 凡ニ 々ク 麗ウツク

新ニシ 柳リウ の色イロ 梅ウメ の香カ



○春夜 ハルノヨ  
春宵一刻值千金 東坡

勝月。梅香。柳眼。  
梨花の月。花影のま。  
春のお枕。お舟をり。  
曉を覚る。落の春。  
海棠。月。月。月。  
花清。梅花の月。

○上巳 三月三日

流觴曲水。宴。蘭亭 王羲之

南浮橋。三日浴中の人々。  
此橋のわたり。男ハ朱服。  
女ハ錦綺。粧。排徊。

両のよ。挑。位。離。

○夕干 シホヒ

はのき。柳。一の洲。  
帯。川。作。人。

○春色 シユシヨラ

天寶遺事。  
九層。油幕の遊。  
九十。風。輕。  
里人の。田螺。一。



花ちりて。ほらくく  
うらうら。山吹も  
口づがはの掛りぬ。山橋小川  
花かん 花かん女  
我まこといふ。ほ盗人よ  
花のあし。月花もかき  
柴舟れ花。ほのむらり  
笑ふり。ほのむらり  
喜んちり。ほのむらり  
うらうら。おろく。桜

○ボ  
名  
長

長繩日波敷系ぐ 李白  
艶陽の天 頃城追遂と  
遊人よあはれと踏ム  
花ふり。山ふり。あくあ  
山ふり。水きりや  
うらうら。うらうら。

あふり。花ちりて。  
りね。まふ人稀  
池のあはれ。故一ツ小麻  
うらうら。うらうら。  
りま。をねの人とおむ

△友 ナツ  
日南陸をゆく  
されと友といふ

○シヨカ  
初

初秋 百穀初て生ると  
秋の故。子皿其を以て  
礼記

佛と浴ふ 周の昭王二十四年  
四月八日佛誕  
生れ九龍出現し七蓮地  
不夜生

友来ても只 唐のおも  
一ツのツ みるくぬ



一日で花小。夏の今あり  
山の今あり

袖の衣小昔。きかぬ  
ととふのふ。あや牡丹

明の夜の昔  
きの昔

○文衣

一ツ脱てうる。綿さめく  
肩ぬ。菘ぬ。

刀もくて  
又もくて

○晝寝

漆園の蝶。莊子の後小胡  
蝶とあり

後小夕と得る。謝靈運

後小華昏國の遊ぶ

列子の黃帝の後中華昏  
國の遊ぶ。三十八年の事  
天下大小の事

自ミツカラ義ギ皇クニとり。陶淵明  
閑北窓の下高卧をはらん

人といふ。義皇上

邯鄲の後。系白とむく

風をくる。ぬまてる

○端午 五月五日

艾を採る。人は百をと踏  
吟ふて毒氣とをらふ

竹中の神水。重五日の午れ  
多小竿竹と破れ節中小  
神のあり足は懶肝と以て  
九葉と心腹積聚とはらん

子血嘗君。父田明女からく  
父母小利りとて後子

む孟嘗君が白人生今下はらん  
天小のけりあんそらんや

とて遂小名公天下小  
かくやん



重なる代ふつり。その粽の  
甚遠の影を思ふ。國津凡  
意なきぬ女の。傘ふけり  
糝ふ形 小人形

○<sup>ナツヨ</sup> 復夜

お月開き涼風納イル 杜詩

かりき細と。蜻蛉やえらあき  
ゆき月。移しもも  
田町の豆つら。心ハあさくら  
ゆくりあさくら  
市中ハおの。蜜こり  
白ひや。西のいふべ

○<sup>エンシヨ</sup> 火火暑

金と流コウキ 蜀れ後主のつら  
金流して景方  
お熾あり

氷と賜ふ 井ふゆと藏て  
三伏の月さくら  
大匠ふらふあり

火雲クワン 升ノホ 杜詩

元山ゲンサン のかた及ぶぬ。夏まきあき  
あつとく。まの夏あき

我字ガジ 初ハツ 秋の。涼風や虚を  
ちいささと流走 ふみちて

あつて暑と。石も木も眼  
牛の舌 とうらつと

雞の砂ニ さらり。ほろろ  
あむりつと 柳うけ

飛飯トビイ の底ソコ 小  
あつり流れ

△<sup>アキ</sup> 秋 三秋。九秋。素秋。  
素商ソウショウ くらふ

○<sup>ハツアキ</sup> 初秋

一葉ヨウエツ 落ち 淮南子  
一もふちて天下此  
秋と知は

風媚媚カキ 梁の文帝此詩  
秋風忽媚々女子  
向きて涼感と引

五葉イタ あらうの。今秋の秋知と  
あつとのおま門掃く男







天高く氣清キキヨ 宋王九カク辨

屈平朝クツヘイ木蘭モクランの英ヒコ

飲ミ夕タ秋菊アキキクの英ヒコ

菊キク不フ飛ト曹秋思賦ソウシュシヒ

菊キク不フ揚ウ川カハをヲ

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

天高く氣清キキヨ

屈平朝クツヘイ木蘭モクラン

飲ミ夕タ秋菊アキキク

菊キク不フ飛ト曹秋思賦ソウシュシヒ

菊キク不フ揚ウ川カハをヲ

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

秋アキのノ風カゼ。秋アキのノ風カゼ。

○重九チウキウ 九月九日

泛菊會ハンキクカイ 風土記九月九日フツキ

酒を飲サケ 晋陶淵明シンタウエンメイ

白衣の人至ハクイノヒト 重九酒チウキウサケ

滕王閣トウワウカク 重九王勃大チウキウワハツ

日ヒをヲ飲サケ 菊キクのノ酒サケ



○ 菊秋

菊ハキク傲シモる 東坡詩

秋アキ多タきキみミのノ 秋ハアキ色イロのノ 飄ヒラ

何ナニもモ遊ユくクえエりリ。 菊キクのノ香カ子コ

かカまマらラうウてテ暮暮。 狐キツネのノ跳ヒるル住ジ居イ

さサらラのノ榎エノ木キ 秋アキのノ色イロ

文フミ覺サトワルルルをを。 屍シのノ所トコロ

殺コロセルルル。 女メのノ席セキ

宿ヤド屋ヤのノ夜ヨをを。 桐キナンド動ユくク秋アキのノ

夕ユフ夜ヨ 後ノチにニヤヤ

みミ宮ミヤのノ名ナをを不フ

甘アメきキもモ遊ユくク

△ 冬

○ 初冬

おオのノ心ココロもモ動ユくク。 一ヒト名ナもモ動ユくク

神カミ々々りリ。 おオらラとトおオおオ

一ヒトふフくクのノおオ。 木キのノ葉エハをを

とトおオのノおオ。 つツもモくク岩イハのノ房フ

風カゼやヤ仲ナカらラりリ。 市イチ中チュウをを

きキのノ葉エハのノ。 風カゼのノ枝エダ小コ

○ 冬至

歳トシ小コ亞アくク 宋書ソウショ二ニ百ヒャク萬マン

賀ガとト稱ショウをを歳トシ朝アサふフつツぐグ

一ヒト陽ヤウ来キるル 歳トシ時トキ記キ

日ヒ月ツキ連レン璧ヘキのノ如ニ 桓譚ケンタン新シン論ロン

日ヒ宮キウ線センをを作ソクすス 雜ザ録ロク

五イ日ニチのノ樂ラク 易イ通ツウ封フウ駿ジュン冬トウ至ジ

君キミ臣シンもモわワたタのノむム云クモ家カもモ











孤<sup>コボウ</sup>家の。巖<sup>イハ</sup>屋<sup>ヤ</sup>。千丈  
旁<sup>キリ</sup>々々。雲<sup>クモ</sup>深<sup>シ</sup>七曲<sup>ナナマヅリ</sup>  
春<sup>ハル</sup>の山。中<sup>ナカ</sup>不<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>水<sup>ミヅ</sup>ぬ  
草<sup>クサ</sup>唐<sup>カラ</sup>。然<sup>シカ</sup>不<sup>フ</sup>之<sup>シ</sup>を<sup>ヲ</sup>梅<sup>ウメ</sup>  
原<sup>ハラ</sup>平<sup>ヘイ</sup>は<sup>ハ</sup>く。雲<sup>クモ</sup>を<sup>ヲ</sup>敷<sup>シ</sup>  
雲<sup>クモ</sup>深<sup>シ</sup>を<sup>ヲ</sup>唐<sup>カラ</sup>。か<sup>カ</sup>ん<sup>ン</sup>古<sup>コ</sup>多<sup>タ</sup>  
秋<sup>アキ</sup>の山。月<sup>ツキ</sup>清<sup>セイ</sup>。蘭<sup>ラン</sup>花<sup>ハナ</sup>  
白<sup>シロ</sup>き<sup>キ</sup>飛<sup>トビ</sup>ぶ。菊<sup>キク</sup>の香<sup>カウ</sup>を<sup>ヲ</sup>

○溪<sup>タニ</sup>

あ<sup>ヒ</sup>冷<sup>ヒヤ</sup>。月<sup>ツキ</sup>送<sup>オウ</sup>る。流<sup>ナガ</sup>る  
危<sup>コヤ</sup>な<sup>ナ</sup>橋<sup>ハシ</sup>。小<sup>コ</sup>館<sup>カン</sup>の<sup>ノ</sup>傍<sup>ナリ</sup>。梅<sup>ウメ</sup>花<sup>ハナ</sup>  
谷<sup>タニ</sup>の<sup>ノ</sup>音<sup>ネ</sup>。幽<sup>ユウ</sup>棲<sup>セイ</sup>の<sup>ノ</sup>地<sup>チ</sup>。石<sup>イシ</sup>鳴<sup>ナ</sup>  
雲<sup>クモ</sup>を<sup>ヲ</sup>不<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>傍<sup>ナリ</sup>。流<sup>ナガ</sup>る

石<sup>イシ</sup>と<sup>ト</sup>云<sup>ク</sup>ふ<sup>ハ</sup>。凡<sup>ソドモ</sup>の<sup>ノ</sup>可<sup>カ</sup>け<sup>ケ</sup>る<sup>ヲ</sup>  
争<sup>マカ</sup>唐<sup>カラ</sup>。泉<sup>イハ</sup>鳴<sup>ナ</sup>。隣<sup>トナリ</sup>奔<sup>ハシ</sup>  
雲<sup>クモ</sup>不<sup>フ</sup>入<sup>レ</sup>て<sup>シ</sup>。苔<sup>コケ</sup>髪<sup>カミ</sup>生<sup>ナ</sup>る<sup>ヲ</sup>  
梅<sup>ウメ</sup>溪<sup>タニ</sup>。竹<sup>タケ</sup>溪<sup>タニ</sup>。桃<sup>モモ</sup>溪<sup>タニ</sup>

○遊<sup>ユキ</sup>

銀河九天<sup>ギンガク</sup>より<sup>ヨリ</sup>流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>  
流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>飛<sup>トビ</sup>ぶ。岩<sup>イハ</sup>を<sup>ヲ</sup>以<sup>モ</sup>て<sup>テ</sup>。三千尺<sup>サンゼンシツ</sup>  
耳<sup>ミミ</sup>に<sup>ニ</sup>流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>。雲<sup>クモ</sup>不<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>飛<sup>トビ</sup>ぶ  
雷<sup>ライ</sup>を<sup>ヲ</sup>流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>。裡<sup>ウラ</sup>昇<sup>ノボ</sup>る<sup>ヲ</sup>。火<sup>ヒ</sup>烟<sup>エン</sup>  
心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>。山<sup>ヤマ</sup>不<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>之<sup>シ</sup>は<sup>ハ</sup>中<sup>ナカ</sup>野<sup>ノ</sup>  
白<sup>シロ</sup>如<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>如<sup>シ</sup>。玉<sup>タマ</sup>花<sup>ハナ</sup>流<sup>ナガ</sup>る<sup>ヲ</sup>を<sup>ヲ</sup>  
羞<sup>ハズ</sup>破<sup>ク</sup>る<sup>ヲ</sup>。自<sup>ミ</sup>と<sup>ト</sup>戯<sup>シ</sup>く  
碧<sup>アヲ</sup>空<sup>カラ</sup>不<sup>フ</sup>掛<sup>カ</sup>る<sup>ヲ</sup>



○海

天不通博物志

蜃樓漢書 日以洗不

日星と流大鵬飛

つづつと神の和 田の系

吐月と吞 天池

録の巻仲とつる 房

海の都宮浮木 の龜

大海系仲の 雲

之のゆ凡浪不 嘗月

仲のあり川海を 舟

潮の花帰帆 漢火

魚眼波と射海を 射

信一ツ夕 凡

百谷のめ八 章のう後

子の 庭ち 海北海

とて 四海な れ海

海のりた ち海 八十海

浪がら 夕の 備干

仲と白 枕の 下れ海

海不 ちと 神住吉 明神の

龍の 宮姫 海龍王 の女と

詞の 海は 法の うみ

浪の 海入 迫門

○湖

龍天不 升秦州 記

天鏡李白 詩霜鏡 詩



乾坤ケンゴン日夜ニヤ浮ウカふ 杜甫詩

空カラ空ソラ小コ櫓ヨふ 東坡

浪ナミの花ハナ浮ウカふ 杜甫

范蠡ハンレイ五湖ゴコ舟フネ集ツふ

九鯉湖クイコ 福建興化府の

同ドウ庭テイの秋アキ 西湖シヤホの曙アサ

子コ舟フネ湖ウミ花ハナ吹フク入イる

夜ヨ小コ舟フネの雨アメ

花ハナのハナ入イるル 舟フネのフネ

舟フネのフネ泉イハ 捨ス小コ舟フネ

芦アシ分ワ舟フネ 信シ小コ舟フネ込コ込コ

積ツキ水スイ 朧オホホ月ツキ 帆メキのメキ目メ利リ

舟フネ吹フク 竹タケのタケ霜シモ

波ナミのナミ橋ハシ 仲ナカ夜ヨム

聲コエ客キヤク船セン小コ至シる

日ヒ生ナ流リウ 信シ小コ舟フネ月ツキ

入イ日ニチとト大ダイ集シツふ 芦アシ舟フネのノ月ツキ

舟フネのフネ面オモ小コ舟フネ月ツキ 舟フネのフネ影カゲ

柴シ舟フネ 子コ舟フネあアくク 舟フネのフネ影カゲ

鴨カモ 鶴ツル 舟フネのフネ影カゲ

蜺シ舟フネ 舟フネのフネ影カゲ

○ 修シユ

仙居センキョ 渤海の東に五山あり

宮闕ミヤノケ 仙人居る金銀と空

鶴汀カサネノツツ 鳥渚 滕王閣記

月ツキ影カゲ 舟フネのフネ影カゲ



阿ノ家。漢舟。細引

雷電。罪無<sup>ツミナ</sup>。死<sup>シ</sup>の月

八十<sup>ハチ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。宮嶋

後守。尤<sup>モト</sup>。人<sup>ヒト</sup>。夕<sup>ツキ</sup>凡

黄<sup>ワウ</sup>。海<sup>カイ</sup>。氣<sup>キ</sup>。干<sup>カン</sup>。凡<sup>凡</sup>。を<sup>ヲ</sup>。後<sup>ノチ</sup>

後<sup>ノチ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。後<sup>ノチ</sup>

と<sup>ト</sup>。は<sup>ハ</sup>。島<sup>シマ</sup>。多<sup>タ</sup>。の<sup>ノ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。た<sup>タ</sup>。あ<sup>ア</sup>。り<sup>リ</sup>。後<sup>ノチ</sup>

蝦夷<sup>エゾ</sup>。が<sup>ガ</sup>。子<sup>コ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。新<sup>シン</sup>。律<sup>リツ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。日<sup>ニチ</sup>。本<sup>ホン</sup>

ま<sup>マ</sup>。は<sup>ハ</sup>。島<sup>シマ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。陸<sup>リク</sup>。水<sup>スイ</sup>。舟<sup>フネ</sup>

○浦。古詞

烟雨<sup>エンウ</sup>。南<sup>ナン</sup>。浦<sup>ホ</sup>。不<sup>フ</sup>。晴<sup>セイ</sup>。古詞

沙<sup>サ</sup>。争<sup>ソウ</sup>。う<sup>ウ</sup>。し<sup>シ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。か<sup>カ</sup>。如<sup>コト</sup>。李白

鷗<sup>ウ</sup>。戲<sup>キ</sup>。る<sup>ル</sup>。杜<sup>ト</sup>。甫<sup>フ</sup>。平<sup>ヘイ</sup>。沙<sup>サ</sup>

岸<sup>キ</sup>。曲<sup>キョク</sup>。の<sup>ノ</sup>。渾<sup>オン</sup>。父<sup>フ</sup>。あ<sup>ア</sup>。る<sup>ル</sup>

太<sup>タイ</sup>。公<sup>コウ</sup>。望<sup>ボウ</sup>。直<sup>チキ</sup>。釣<sup>テウ</sup>。い<sup>イ</sup>。さ<sup>サ</sup>。り<sup>リ</sup>。舟<sup>フネ</sup>

管<sup>クワン</sup>。傳<sup>デン</sup>。る<sup>ル</sup>。夕<sup>セキ</sup>。舟<sup>フネ</sup>。倚<sup>ヨリ</sup>。田<sup>テン</sup>。鶴<sup>カク</sup>

浦<sup>ウラ</sup>。づ<sup>ヅ</sup>。い<sup>イ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。子<sup>コ</sup>。多<sup>タ</sup>。船<sup>フネ</sup>。か<sup>カ</sup>。ん

夕<sup>セキ</sup>。あ<sup>ア</sup>。き<sup>キ</sup>。斤<sup>キン</sup>。男<sup>ナウ</sup>。浪<sup>ナウ</sup>。友<sup>ユウ</sup>。子<sup>シ</sup>。多<sup>タ</sup>

桜<sup>オウ</sup>。ハ<sup>ハ</sup>。浪<sup>ナウ</sup>。小<sup>コ</sup>。埋<sup>ウレ</sup>。れ<sup>レ</sup>。難<sup>ナニ</sup>。の<sup>ノ</sup>。塩<sup>シホ</sup>。燒<sup>ヤク</sup>

病<sup>ヤメ</sup>。屋<sup>ヤ</sup>。の<sup>ノ</sup>。お<sup>オ</sup>。き<sup>キ</sup>。い<sup>イ</sup>。ま<sup>マ</sup>。る<sup>ル</sup>。波<sup>ナミ</sup>

村<sup>ムラ</sup>。多<sup>タ</sup>。る<sup>ル</sup>。を<sup>ヲ</sup>。于<sup>ニ</sup>。写<sup>シヤ</sup>。浦<sup>ウラ</sup>。人<sup>ヒト</sup>

う<sup>ウ</sup>。記<sup>キ</sup>。免<sup>メン</sup>。か<sup>カ</sup>。る<sup>ル</sup>。伊<sup>イ</sup>。勢<sup>セイ</sup>。か<sup>カ</sup>。の<sup>ノ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。士<sup>シ</sup>

浦<sup>ウラ</sup>。後<sup>ノチ</sup>。太<sup>タイ</sup>。師<sup>シ</sup>。夕<sup>セキ</sup>。凡<sup>凡</sup>。ま<sup>マ</sup>。る<sup>ル</sup>

儀<sup>ギ</sup>。馴<sup>ジュン</sup>。松<sup>ソウ</sup>。浦<sup>ウラ</sup>。小<sup>コ</sup>。る<sup>ル</sup>。玉<sup>タマ</sup>。藤<sup>フジ</sup>

浦<sup>ウラ</sup>。ま<sup>マ</sup>。る<sup>ル</sup>。浦<sup>ウラ</sup>。リ<sup>リ</sup>。け<sup>ケ</sup>。あ<sup>ア</sup>。る<sup>ル</sup>。も<sup>モ</sup>

○江。史記曰四瀆已不侯

四瀆。史記曰四瀆已不侯

と<sup>ト</sup>。形<sup>カタ</sup>。り<sup>リ</sup>



白浪銀屋の如シラナエキンヤ 李司馬

屈原クワン試ト吊ラ 漢楊雄

黃金の浦コカチ 鄼元注カウホ子 氷經ツツ 白カモメ

て江の弄ナギ 畔ナギ を黃金の浦カウホ子 とツツ

蔭モ の花カウホ子 何骨カウホ子 芦カウホ子 の花カウホ子

蔭カウホ子 網代守カウホ子 釣舟カウホ子 臨カウホ子

踏ナギ 踏ナギ 玉江の蘆アシ

○川カハ

白水ハクスイ の女メ 九傳ク

千年チトセ ありて徳キヨ ム 壬子年

九里潤ウレホ 後郭ウレホ 飯ウレホ

海ウレホ 不入ウレホ 鶉舟ウレホ 願舟ウレホ

竹イカダ 筏イカダ ぎし。さしあ。お川

流川。あ車。ぬまのおふ

云遠川。ワラ川 同上

芙蓉イサキ の川イサキ 池イサキ 堰イサキ 柵イサキ

柴舟シバフチ を。網アミ あり。粘アミ つり

川アミ の柳アミ。子アミ 本の柳アミ。川舟

夜舟アミ。何アミ 々アミ。ぬまのあ。

何アミ 々アミ。粘アミ 砂アミ 河アミ。ぶま。

石川アミ。あふ川アミ。石川

友川アミ。あふ川アミ。あ個アミ 々

うアミ 々アミ。夜アミ の尺アミ 々アミ。

志アミ 記アミ あり。堤アミ。地アミ 籠アミ

川社アミ。河アミ 凡アミ。川アミ 々

川アミ 々アミ。夕アミ 涼アミ 々アミ。臘アミ 夜アミ

七アミ 能アミ の定アミ。例アミ。舟アミ 橋アミ



六玉川 山城杉津武藏 近江紀伊筑前

三百川 山城陸奥筑前

陸奥の白川ハ川ホチク山に  
形又園と云ふ

○波

一簇の人 夕陽あはれて 晩霞生

後口船と云ふ人一族 東坡得湯歌

人ハゆふまの 賈島詩

山外の山 石屏詩ニ云ふ 波傍の渡り

舟を待つ 騎と停 川止

川をふゆ 立寄り 斜陽

陳平 舟を呼ぶ 斜陽

蘆花 牛馬舟を畏る 鷗眠る

舟橋 横

○池

雲雨池 文選 雨と聴

池底錦衣 李右開成 兼詔録

蓮の花 蓮の花 江

木の葉舟 月夜俗

生ると放つ 龜甲以て

蟹と出さ 性飛さむ

飛る 柳昏く 輕舟

釣と無く かき山

○泉

盜泉飲 孔子盜泉と過 渴をれり



山と刺と 前漢戡師將軍 李廣利  
人大宛と征するおかし軍中ふ  
あ形し 剣とぬいて山と刺と  
つりみ湧ち  
雲と涵し玉と注ぐ 秦火  
岩とる飛た。石ふ解ち  
梅うり。花ほく。都ほ  
温泉。山多のおろの後。  
月争ふて流る

○井

風井 荆州記曰其風也  
鹽井 漢書曰蜀の鹽井  
甘井 莊子曰。桐生る  
轆轤のちる 井さへ  
古井のほあ。いさあり

玉の井。三井のほあ 三井寺  
岩井。山の井。一ツ井  
七ツ井 鹿嶋 ぬ狭井 南都  
我門の板井の志 古今  
井の底ふん。大を。石井  
井出の地。桔槔。茶と試  
木の葉ちり込

○水

天と浮地と載と 元中記  
舟に載舟と覆と 荀子  
糸物と利 道德經  
漱漱。天は包ム。地は帯ふ  
八水。月沈む。日とほふ  
天地玉壺中。滄浪闊く



○遠水

天上より來る李白曰黃河の源ハ天上より

あり日。天小連オホキキウ。歸舟

目送る。雲を馬とほふ

○流あり

徳小似たり孔子トクニ東小朝と

混混チヤヤ。昼夜ヤト試舎ら

盡る期あり。後小あり

波瀾ハランとあり。雲と浸ヒタれ

○あのか

玉を激ぐ。石小鋭コウク。浩々

山をめぐ。古今あり

たのむ小雜ニジバ。月小摘ツ

菴イホリ小シく。秋アキ小シと捲マク

○まのあ

四澤シツク小備ミツ淵明カ詩

曲水キョクスイの宴エン。あめむむ

桜川イカガ。花ハナ花ハナ。花ハナのハナ信ナシ

花ハナ七ナナ信シあアのノ月ツキかカ古今コキン

桃花トウカのハ信シ替カ桃水トウスイ柳リウ花ハナ

暖氣ナンキ魚イサあアぶブ

○秋の水

秋アキ固カるル禮記レイキ波ハ静シヅあり

信シりリてテ之ノ魚イサかカ杜詩ト

信シりリてテ之ノ魚イサかカ杜詩ト

萩ハギのハ家カ。菊キクのノ音ネとト暮ムふ

あアるル流リウるル。紅ベニ花ハナとト信シりリ

をヲ疑コトルル淮南子淮南子



タカ十三 テシ 浪天不蹴る 杜甫

セイランシ ザララシ 淮南子ニ曰 浪天不蹴る 佳句ニ喜小 あり得 ありき大なり

心のみ。あゝの心。君の下水 志ぐむあ。さゝあああ

松の下あ。松の下あ 新の糸あ。雨の忘れあ。

あ。解。さああ。磯のあ 庵さび。こ。庭のあ。さあ

負のあ。さあああ

○氷 コホリ ハルウラ ホ 礼記

北鼠氷 ホクソウ 神異記

氷梁とある 柳元宗

狐渡。ゆ。狸踊る

氷室。化して 玻璃を

あの稲妻。魚の乳務のや

突破して 杉

○石 イハイ 岩巖

星もあて石と形る 圖經

女小化 ナコ 幽明録言五色の 石とて床上下

石能言 イシノコトバ 九傳

黄石とある クハクセキ 史記張子房 穀城山の下小於て

松風石 マツカゼ 杜楊編ニ曰方一丈 中ノ松風の多かり



石の香。松浦さよ姫  
忍むり。石の火。仲の心

玉のハハ。石の枕  
石舟。石橋。苔むら石。

岩原水。動きよ子の  
まじれる。石の石

八百日。後の真砂  
七日。後のまきこ

ち。石の石。石の身  
石の枕。石の石

壺碑。陸奥

○日本

豊葦原。磯取盧嶋  
大八州。浦安國

豊秋津洲。細支千足國  
玉垣内國。神の心。我國

心。動きよ大和を  
道。石の心。豊なる心。我國

天地の心。心。心。心  
心。心。心。心。心。心

○帝都

四神相應地。前朱雀後玄武  
神州。古今通論。二曰帝王の

龍蟠虎踞。孔明吳帝曰  
城虎踞。石直。真。帝王の居

皇州。神京。平安城  
九重。三條。九陌。玉城



萬戸。千門。五星。八水。  
玉の都。雪の都。仙家も  
都のよき。都人まきの錦  
竹の都。つせを

○内裏ダイリ

皇居。東闕。北闕。金殿  
鳳闕。龍淵。玉樓。百女  
大宮人。まのうへ人  
丹鳳。素儀。花のまゆ。  
まのまのま。みち。はたの極  
まのまのま。まのまのま  
まのまのま。まのまのま  
大内山。まのまのま。まのまのま

玉のまのま。まのまのま。  
天津日嗣。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。

○城シロ

鐵甕。潤州の城。名呉の  
山小連。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。  
まのまのま。まのまのま。



○城跡

鬼火<sup>キクハ</sup>。花寂<sup>ハナサビ</sup>。多<sup>タ</sup>く  
何<sup>ナニ</sup>の代<sup>ノトキ</sup>。月<sup>ツキ</sup>。寮<sup>シヤウ</sup>。ト  
鷹<sup>トビ</sup>。コト。孤<sup>コ</sup>。跳<sup>ト</sup>。休<sup>ヒ</sup>  
兵<sup>ツバキ</sup>。と。ま。が。と。も。火<sup>ヒ</sup>。も。  
と。夏<sup>ナツ</sup>。の。江<sup>カハ</sup>。あ。く。桃<sup>ウメ</sup>。の。花<sup>ハナ</sup>

○市

紅塵<sup>コウジン</sup>。四合<sup>シゴウ</sup>。班固<sup>ハンコ</sup>。西都賦<sup>セイトフ</sup>  
大<sup>ダイ</sup>。隱<sup>イン</sup>。之<sup>ノ</sup>。輕<sup>ケイ</sup>。市<sup>シ</sup>。小<sup>コウ</sup>。陽<sup>ヤウ</sup>。  
車<sup>シャ</sup>。馬<sup>バ</sup>。開<sup>カイ</sup>。一<sup>イチ</sup>。貨<sup>カ</sup>。財<sup>サイ</sup>。通<sup>ツウ</sup>  
市<sup>シ</sup>。姫<sup>ヒメ</sup>。の。神<sup>カミ</sup>。朝<sup>アサ</sup>。市<sup>シ</sup>。夕<sup>ユフ</sup>。市<sup>シ</sup>  
陶<sup>タウ</sup>。朱<sup>シュ</sup>。公<sup>コウ</sup>。之<sup>ノ</sup>。傘<sup>カサ</sup>。亭<sup>テイ</sup>。有<sup>ユウ</sup>。る  
之<sup>ノ</sup>。化<sup>カ</sup>。の。市<sup>シ</sup>。茸<sup>ニウ</sup>。の。市<sup>シ</sup>。魚<sup>イサ</sup>。市<sup>シ</sup>  
筭<sup>サン</sup>。の。市<sup>シ</sup>。斤<sup>キン</sup>。の。市<sup>シ</sup>。涼<sup>リョウ</sup>  
あ。の。白<sup>シラカ</sup>。ひ。や。夏<sup>ナツ</sup>。の。月<sup>ツキ</sup>

○里

茗<sup>メイ</sup>。名<sup>ナ</sup>。松<sup>マツ</sup>。と。織<sup>オリ</sup>。る。機<sup>ハタ</sup>。さ。く。お  
井<sup>イ</sup>。と。共<sup>トモ</sup>。み。え。世<sup>セ</sup>。人<sup>ニヒト</sup>。酔<sup>ユイ</sup>。ふ  
砧<sup>キヌタ</sup>。の。窓<sup>マダラ</sup>。花<sup>ハナ</sup>。あ。ら。り。里<sup>サト</sup>  
虫<sup>ムシ</sup>。の。名<sup>ナ</sup>。を。ま。が。村<sup>ムラ</sup>。着<sup>キ</sup>。置<sup>セ</sup>。る。身<sup>ミ</sup>  
讀<sup>トク</sup>。經<sup>キョウ</sup>。の。名<sup>ナ</sup>。を。ま。が。と。ま。え  
酒<sup>サケ</sup>。を。買<sup>カ</sup>。ふ。小<sup>コ</sup>。雨<sup>アメ</sup>。あ。ら。り  
孤<sup>コ</sup>。村<sup>ムラ</sup>。牛<sup>ウシ</sup>。眠<sup>ネム</sup>。る。里<sup>サト</sup>。の。大<sup>オホ</sup>

○道

馬<sup>ウマ</sup>。上<sup>ノ</sup>。み。眠<sup>ネム</sup>。る。畦<sup>アゼ</sup>。づ。ら。み  
道<sup>ミチ</sup>。分<sup>ワケ</sup>。の。石<sup>イシ</sup>。孝<sup>カウ</sup>。子<sup>シ</sup>。は。香<sup>カウ</sup>  
虫<sup>ムシ</sup>。の。名<sup>ナ</sup>。を。ま。が。と。ま。え  
日<sup>ヒ</sup>。を。送<sup>オク</sup>。る。雨<sup>アメ</sup>。と。推<sup>オシ</sup>。る。ふ  
蟻<sup>アリ</sup>。送<sup>オク</sup>。る。雨<sup>アメ</sup>。と。推<sup>オシ</sup>。る。ふ



白蛇と斬る 漢高祖

信を流る 柳陰 西行

夕之走る 雨 雨

羊の氣 乾凍 玉并

砂礫 山道 曲る

苔の細道 子代の古道

松の下道 家の下

夜道 竹の下道 後修心

木槿 馬子 喰ら

○橋 杜預舟橋 造 晉書

張良 下邳 史記

松子 似る 長松の人柱

馬車 不棄 此橋 以過

思ふ 橋 柱 子記 漢ノ

相如 蜀郡 此橋 子願 して曰

張飛 橋 以断 蜀志 三曰

勇と横 以 橋 以 きりて 勇

以 擲 敵 近 付 其 の 方

花 の 侍 橋 家 の 玉 橋

家の 撈 橋 反 橋

山 依 の 一 橋 其 の け 橋

菱 の 浮 橋 口 傳 鶴 橋

丸 木 橋 石 橋 紅 葉 橋

橋 姫 三 姫 の 内 板 橋

土 橋 天 の う ね 橋

○函 谷 子 鷄 孟 嘗 君

函 谷 子 鷄 孟 嘗 君



老子ハ牛小乗老子ハ

道徳經ヲ傳授ス關吏ハ

舟ヲ職シテ待ツ鳥江の亭長

項羽の敗軍ヲ憐ムテ待

云關白川逢坂不破

美濃と云々の子孫物語

関吹ふ心関セキモリ

浮世の関板イタぶトリ

いふ信の関セキより

関静謐のの世カとらりぬ

○野

野火ヤケ焼キ也ス雄コ子コ子コ

芝焼ラキ萩ヤケのキツ焼子系コ 瓶火

ワカノ菜カ 也ウ飼カのカ牛カ 陽カをカ

野守ノのカ鏡ミ雄ミ畧ミ天ミ皇ミ

時ノ夜ノ多クりテ又ツはシ也ハ多クハシ

速ク小ヤ上リ方イくキテ知ルルガル

そと又問セ侍ル也也也也也の日

ハ也不侍ル也不侍ル也の教

ウリクル也也斯ヤト處

也也不侍ル也也也也也

也也の也云也也也也也

聖寺也道也也也

也也の也友也秋の也

也也也也也也也也

拈野也也也也也也也

也也也也也也也也

○驛

食シヨクとツ續ツく漢書

驛路スのス鈴ス御ス調ス物ス也ス

征人出女也也也也也也也



いふつひ多。子お、本陣。

世と核。大名入府

冬。川止。歌枕

自尺の核。儀の核

大津繪。木曾の蠅

蚤虱。馬上ふ沙る

一里塚。玄介

○亭。樓閣。臺

蘭亭。王羲之。茅舎。

竹室。山亭。水亭。

林亭。五鳳樓。梁太祖

百尺樓。黃鶴樓。荀瓌

滕王閣。四香閣。楊國

況香木檀木射香乳香の四

香を以て閣と作

姑蘇臺。吳王。九層宮室

琴臺。月臺。釣臺

鳳凰。影。仙桃。醉

非。お。卒の。系。玉。琴。車

死鳥。多。此。瓦。御。柳。の。凡

蘭。小。蕙。鉄。の。包。星。と。摘

鶯。の。聲。客。に。招。く

麒麟。は。書。と。麒麟。閣

秦。女。箏。蕭。は。吹。女。樓。登

て。箏。蕭。は。吹。風。感。て。至。る

遂。小。鳳。小。乘。り。去。ル

秋。凡。枕。小。さ。る。日。は。避。る

を。低。る。蓮。池。琴。の。名



ホウシ。益。遠。あ  
里心。重。計  
暑。避。

○救。至

四。待。路。次  
口。切。生。花。常。金  
臺。子。風。呂。こ。と。糸  
濃。糸。切。炭。枝。炭。  
苔。這。子。庭。掃。庭。  
色。紙。窓。

○山居。村居

門。と。閉。て。野。鹿。以。留。王。建。詩

山。あ。の。癖。李。德。裕

二。千。石。以。謝。と。唐。順。之

松。門。ま。と。と。と。と。と。

谷。の。後。人。ふ。と。と。と。

白。眼。あ。く。人。と。と。と。王。維

鹿。の。あ。く。と。と。と。と。と。

猿。が。茶。以。烹。と。

○間居。貧居

高。臥。靜。坐。蝸。廬



天下サウキの掃除ハ開居 陳蕃

して定宇大ニ蕪穢一郡の薛勤來りて曰一室以掃除して賓客を待ざらん蕃が曰大丈夫世に處て天下の掃除をあたへ一室と事

前漢の陳平 家貧して

好んで書讀む又ある時婦を以て之を富人の婦と云ふ人ありて之を張負が女たり云ふに嫁せんと夫以外を人としてめざる者あり陳平是れを以て張負則女を以て其家不至る不席は門と云ふ此れ門外長者の轍

多ハルチ子ツチ眠る常ヤメル不病ガ如し

石頭セキトウ不眠る

幽人ユウニシの髪カミ琴コトは枕マク 狐狸コリの卧戸フシトかへき多

飯イを盗む猫チコ哀アイ懐コハの如し

鼠ネズミの窟ウツ窓マドのそと梅ウメ邊ヘ

髪カミは散チり油アブラはキツ子コ狐キツ

雨アメ降フるセツ踏フミ引ヒキくイマ犬イヌ

柴門サイモン氣キ儘レ麋鹿ビロクの友トモ

竹タケ四シ入ニ女メのウりシ

野ノ酒サケのウむシ鎖シヤウをウむシ垣ケ

蚊コバエのウちシにシをシ藤フジ子コはシ愧ハ

火ヒたのウむシ推オシのウちシもシちシるシ

木キもシちシりシ木キもシちシりシ木キもシちシりシ

○山家 田家

柴シのウちシにシ竹タケのウちシにシ牛ウシ眠ネるシ

圍イ爐ロ裏ウラ芋イモ種タネ土ツチ人ヒト



コラスク 古老。山田シラタちら僧ソウ郊カウの身  
 カヤリヒ。益ヒル顔カホうカ折カ  
 ツタ 暮ツタふツタつツタらツタ。都ツタへツタ通ツタふツタ  
 ツユ 家ツユ分ツユらツユたツユ。玉ツユ木ツユつツユひツユ家ツユ  
 小ツユ家ツユがツユちツユ。いツユろツユくツユのツユ瓢ツユ  
 シツ 瓜シツのシツ土シツ洗シツふシツ。ハシツをシツ洗シツ律シツ  
 ショリト 梅ショリト小ショリト家ショリトるショリト。枝ショリトおショリト戸ショリト  
 ハキキ 雨ハキキ戸ハキキふハキキおハキキとハキキつハキキらハキキ秋ハキキ。鶏ハキキ  
 ニモ 猫ニモのニモ恋ニモ。大ニモ護ニモらニモたニモ折ニモ  
 ミス 窓ミスのミス灯ミス。虫ミスのミス音ミス。蚯ミス蚓ミス火ミス  
 イナガ せイナガもイナガあイナガ。山イナガ田イナガのイナガ稻イナガ葉イナガ  
 田イナガづイナガらイナガ。氏イナガのイナガ戸イナガ。新イナガ羅イナガのイナガをイナガ  
 ちイナガのイナガ丸イナガやイナガ。苔イナガのイナガむイナガらイナガ  
 山イナガ里イナガ。山イナガ人イナガ。まイナガらイナガのイナガ軒イナガ

○儼家

ツイナ づツイナりツイナ舟ツイナ。ふツイナ霧ツイナたツイナくツイナ扉ツイナ  
 タコツホ 銷タコツホ壺タコツホいタコツホらタコツホ火タコツホ。埴タコツホちタコツホ心タコツホ  
 タイ 名タイ家タイ調タイらタイ。海タイ士タイ人タイ  
 アヒト 海アヒト苔アヒト干アヒトにアヒト

○酒家

シユカ 長シユカ安シユカのシユカ市シユカ 李シユカ白シユカ一シユカ斗シユカ詩シユカ百シユカ  
 篇シユカ長シユカ安シユカ市シユカ上シユカ  
 ケン 券ケン試ケン折ケンらケン 前ケン漢ケン書ケン  
 タル 樽タル試タル枕タル。花タル不タル醉タル。風タルとタル香タル。  
 シキヨ 酒シキヨ狂シキヨ。月シキヨ不シキヨ酌シキヨ。笑シキヨ上シキヨ戸シキヨ  
 ユキケシ 子ユキケシ考ユキケシ足ユキケシ。二ユキケシ日ユキケシ醉ユキケシ。若ユキケシ所ユキケシ  
 シキヨ 竹シキヨのシキヨもシキヨふシキヨ。むシキヨまシキヨらシキヨのシキヨ枕シキヨ詞シキヨ之シキヨ  
 シキヨ 窮シキヨるシキヨ夜シキヨをシキヨ酒シキヨ盗シキヨ人シキヨよシキヨ



神祇部

○神代

軍代。牙比咩命。二神  
天浮橋。天瓊矛。湊合  
高天原。國比彦。天瓊  
石凝姥。潮圓瓊。潮滿瓊  
十種神寶。釣針と矢

○大嘗會

悠記殿。天津神  
至基殿。地津神  
拔勢の使。近江志賀郡  
丹波桑田郡  
田比奉幣。伊勢石清水  
加茂下上

荒見川の傍。小忌衣

日笠のつと。日笠のつと

奏詞奏法。皇者堂神示

豊のつりの第會

○伊勢の神

宗廟内外神。卒鈴川  
玉の松。石の松

神代の後。すひの松

天の磐戸。宮巡。拔糸

大々神樂。三角拍。間の山

御裳。隆川神嘗。御祭

○石。山城

八幡山。鳩の尻。男山



放生川。放生會。安居頭

蕪民將來。厄神系。初卯

武内臣。女郎花。小池頼風

○加茂社 山城

御祖神 下鴨 別雷神 上鴨

石川。瀬見小川。ちんちん

車阿多。及之入。川社

丹塗の矢。一言の神

岩本 業平 橋本 實方

○松尾社 山城

市杵島姫。佛法僧あ

白雨。紅葉。大井川

かみの里

○平野社 山城

八姓の祖神 源氏平家高階 大江中原清原 菅原秋篠

ちのり。京。紙玉川。松。

秋

○稻荷社 山城

之の。稲。坂。天徳神

郊の。己。十。後。初午

卯の。花。お。草。紅

扱。鍵。玉。東寺御供

○春日社 南都

之。ま。ま。山。ま。ま。日。お。菜

お。の。の。道。ま。ま。お。麻

水の。後。辰。郊の。南。お。系



佐保川。猿澤比。あま川

雲井坂。轟橋。新の橋

あまの。アヌ木の宿。批。

あまの。カミ

○住吉神 攝州

菅人神。あま神。あま

虫の聲。あまの。あま

電松系。あま。あま

あま。あま。あま

あま。あま。あま

あま。あま。あま

○龍田社 大和

あま。あま。あま

あま。あま。あま

呼子多。五十串。錦川

琴と引。あま

○日吉山王 近所

あま。あま。あま

あま。あま。あま

あま。あま。あま

あま。あま。あま

あま。あま。あま

○吉田社 山城

あま。あま。あま

あま。あま。あま

○高日宮。神樂岡

あま。あま。あま

○祇園社 山城

あま。あま。あま

あま。あま。あま



姫小松。直葛原。二松本。  
祇園會山鉾。佛のほろ木  
夕涼。ハモツル

○北野社 山城

聖廟。天之山神。七本松  
梅。人神。佛のほろ木  
老松。白を交連。堂

菜。御供。大系湯  
右近馬場

○貴布祢社 山城

縁。鼓井園  
名走。布祢川  
お玉

○玉津島社 紀州

和の神。蜘蛛の振舞  
紀の海。入子舟。手考  
真砂。吹上松

○今宮社 山城

柴。疫癘避る。  
郊の山。毛を林院の花。

○生田社 杉州

雅日女尊。生田川。生田森  
籠の梅。布引。深川  
付る。おのり

○葛城神 大和

名橋のおのり。神の歌



クメチ  
久米の橋。木々の下。  
イナツ  
彌書。一々。高。白。  
カスミ。サクラ  
高砂

○高砂社 播州

松。浦。屋上の後。橋。

紅。毛。ハ。毛。の。夕。凡。鶴。

仲。磯。舟。一々。

○お。文。山城

齊宮。黒木。多。居。小。築。垣。

杜。の。下。家。の。行。風。

榭。柴。此。垣。根。

○布留社 大和

布。伎。女。劍。流。水。来。

十。握。劍。息。多。布。留。社。

○高津宮 播州

大。和。傳。根。名。舟。玉。女。

雞。波。が。と。民。の。竈。

○三輪神 大和

枚。多。門。苔。の。か。る。所。

山。本。廬。佐。神。後。り。

市。人。檜。系。此。奥。味。酒。

索。麵

○四之宮 江州

真。如。入。江。お。出。の。後。

琵琶湖。鳩。の。海。さ。皮。

つ。り。が。子。大。津。お。

○諏訪社 信州

ま。ハ。の。湖。沙。比。狐。伝。



夢の月。鹿の頭献シカカシラタテ

○塩竈社 陸奥

白川関。延喜の巻。塩焼シホヤキ

釣舟。友鶴。松崎。離傳ワカキカシ

千賀の浦。八十傳。末和傳スヘ

都多。古曾関ナゴソノ

煥火。海王の巻。塩焼シホヤキ

下級。関。雄傳。磁。炭鹿ハナカイ

梅の巻。貝ハナカイ

○出雲大社

杵築。八重垣。稻田姫イナタヒメ

素戔。我。若。里。八伎。大蛇ヤマタノヲロチ

天叢。雲。劍。手。摩。手。乳テナツチ

脚。摩。手。乳。湯。津。の。玉。櫛タマシ

好敷の川上

○山殿島 安藝

後廻。庚。蛭。子。七。浦。七。社モトリエヒス ナツラ

か。ろ。わ。地。の。御。前。弥。山ミヤ

鹿。猿。潮。廻。廊。小。満。子ウツクイラ

○生玉社 松州

か。に。の。江。田。蓑。崎。綱。引タミノノ アヒキ

勝。ぬ。の。之。の。屏。々ヲボロ

○西之宮 松州

彦。田。蛸。子。之。帝。大。海。系ヒロダ エヒス

天。石。櫛。樟。船。海。江。領。尾アノイハク スフチ

○鹿嶋社 常陸

常。陸。帶。要。石。言。觸ヒ タチヲヒ カシメイレ コトワレ



仲津の凡。凡。凡。子多

○吉備津宮 備中

吉備中山。金。鳴。の。村。多

螢。舟。泊。安。の。常。細。谷。川

○之。熊。野。紀。伊

本宮。新宮。那智。三所

吉備川。山。馬。那。智。伊

岬。の。橋。あ。の。の。の。の。の。の。山

後。を。王。子。及。發。心。門。紀。の。海

貝。拾。ふ。塵。不。交。る。後。木。綿

鬼。の。志。を。承

○竹。生。傍。近。江

三。夕。天。江。之。嶋。巖。嶋

平。經。政。琵琶。琵琶。江。強。び。と

○愛。宕。山。山城

伊。井。無。尊。白。雲。山。朝。景

後。悠。川。渡。猿。橋。檜。ヶ。原

左。之。坊。砥。石。山

○熱。田。社。尾。張

八。剱。宮。草。薙。劔。薙。菜。山

秦。徐。福。至。揚。貴。妃

吟。海。の。呼。繼。の。橋。松。凡。壘

夜。寒。里。石。皮。手

○宇。佐。八。幡。筑。前

立。白。浪。都。江。の。ふ。あ。れ。海

和。氣。清。麻。呂。糸。竹。籠

神。詠。の。蒙。り



○宰府天神 筑前

安永ち。 アキラク

梅の守 飛梅天拜山 トビウメ

○管寄八幡 筑前

志々此松 宇漣邑 ウミムラ

三韓退治 千代の松原 カンタイチ

○日光山 下野

事代主命 黒髪山 コトシロヌシ

加牟未牟淵 秀海池 カヌミツミ

裏見池 ウラミ

○石寶殿 播州

靜窟 曾根松 戀濱 シヅク

○名海山 羽州

多海權現 三郎靈

むやく此園 之上川 モガミ

象浮 九十九島 ゾウカ

○鶴ヶ岡 相州

鎌倉山 星夕夜 宮柱 カマクラ

谷七卿 七入口 ヤツ

○白山權現 加賀

伊弉册尊 竹籠の夜 イザナノミコト

越の白根 宮の下岬 コシ

○氣比社 越前

仲哀天皇 氣比の海 ナカアヒ

山をきき 劔 かりき ヤマ

延虫のつり舟 玉江 ノボリ

右乳山 ミナト



○富士山 駿河

木花園耶姫 富士の烟

不二の宮 躑走 人穴

浮島系 田子此浦 弓矢

曾我兄弟夜討

○蟻通 紀伊

七曲玉 蛇の雌雄

木の本末 馬羽の文字

○御香宮 山城

伏見里 祓りぬ月

城山 桃の花

○五條天神 山城

年紙法 蒼木 勝れ餅

寶舟 厄もあ

○香取社 下総

浮洲 菴寄 閑屋 里

勝間田比 盃の井

○御霊社 山城

祭神八座 大内山 九重

藤森社 山城

你里 鶺鴒 駿馬

○丹生社 大和

天の香久山 杣人 五月雨

丹生川 鴨 真木流



○大原野社 オホハラノノ 山城

春日の神 カスカ 小松山 ヲシホヤマ 行幸 キョウキョウ

神代の松 カミヨノマツ 鷹狩 タカカリ さか

紅鳥 ベニトリ 腕 オホウデ 仙 セニ

釋教部 シヤクケウ

○佛 ホトケ

堯平天より西域舍衛國淨梵王宮に周礼昭王廿六年四月八日降神と麻手耶夫人の右乳脇より誕生と時小靈瑞多し。歳十九小して城に踰て出家を志し道勤行精進禪定の間六年成道三十二相八十種好と具を釋迦牟尼佛と号を在世教化四十九年則天龍人鬼來つて法にきく弟子多く得道證果あり。周の穆王五十二年二月十五日娑婆羅維雙樹の間におわて涅槃入る。壽七十九

西方の聖人 サイフウノセイジン 太宰詔孔子 タイサイノミコトシ

聖人 セイジン と云ふヤ子曰西方の聖人 サイフウノセイジン

自信を化 ジシンヲカ 自ら行 ミヅカ 蕩々乎 トウトウハ 人能名 ヒトノチカ

九年百壁 クニノヒトヒト 達 トウ 袈裟 カサ 慧可 ケイコ 授 オウ

佛骨 ブツコツ 論 ロン 表 ヒョウ 韓退之 カンツイジ

鉢中 ハツチウ 蓮 レン 生 ナマ 佛圖澄 ブツトウジヤウ

百鳥 ヒヤクニク 花 ハナ 咬 クハク 清融 セイジュウ 禪師 ゼンシ

寒山 カンサン 拾得 シツトク 二人 ニヒト 山石 サンシヤク 忽然 コトニ

路 ミチ 猛虎 モウコ 逢 アヒ 雲居 ウンキ 禪師 ゼンシ

白蓮社 ハクレンシヤ 入 イリ 惠遠法師 ケイエンホフシ

青然鳥 セイエンニ 須弥山 スミダニ の下 ノシタ 青然鳥 セイエンニ 伽藍 カラン あり



黄金<sup>クワウゴン</sup> 袈裟<sup>セウサ</sup> 布<sup>フ</sup> 給<sup>キョウ</sup> 孤<sup>コ</sup> 長<sup>チヤウ</sup> 者<sup>シャ</sup> 八<sup>ハチ</sup>  
祇園<sup>キエン</sup> 精舍<sup>シヤウシャ</sup> 舍<sup>シャ</sup> 不<sup>フ</sup> 布<sup>フ</sup> 一<sup>イツ</sup> 金<sup>キン</sup> と<sup>ト</sup> あり<sup>アリ</sup>

針<sup>ハネ</sup> 山<sup>サン</sup> 吟<sup>イン</sup> 子<sup>シ</sup> 羅<sup>ラ</sup> 什<sup>シ</sup>

虎<sup>コ</sup> 溪<sup>ケイ</sup> 三<sup>サン</sup> 咲<sup>サイ</sup> 惠<sup>エ</sup> 遠<sup>エン</sup> 法<sup>ホフ</sup> 師<sup>シ</sup>  
陶<sup>トウ</sup> 元<sup>ゲン</sup> 亮<sup>リヤウ</sup>  
陸<sup>リク</sup> 修<sup>シュ</sup> 静<sup>シヤウ</sup>

○寺<sup>テラ</sup>

精舍<sup>シヤウシャ</sup> 梵<sup>バン</sup> 宮<sup>ミヤ</sup> 實<sup>ジツ</sup> 地<sup>ヂ</sup> 化<sup>カ</sup> 城<sup>シヤウ</sup>

布<sup>フ</sup> 金<sup>キン</sup> 地<sup>ヂ</sup> 就<sup>ジユ</sup> 鳥<sup>トウ</sup> 峯<sup>ホウ</sup> 道<sup>ダウ</sup> 場<sup>ジヤウ</sup>

招<sup>シヤウ</sup> 提<sup>テイ</sup> 何<sup>ナニ</sup> も<sup>モ</sup> ち<sup>チ</sup> の<sup>ノ</sup> 名<sup>ナ</sup> あり<sup>アリ</sup>

○比<sup>ヒ</sup> 叡<sup>エイ</sup> 山<sup>サン</sup> 延<sup>エン</sup> 曆<sup>リキ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 近<sup>キン</sup> 江<sup>カウ</sup>

我<sup>ワ</sup> 之<sup>ノ</sup> 私<sup>シ</sup> 就<sup>ジユ</sup> 多<sup>タ</sup> 御<sup>ミ</sup> 山<sup>サン</sup> 山<sup>サン</sup> 門<sup>モン</sup>

出<sup>シュツ</sup> 之<sup>ノ</sup> 大<sup>ダイ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 之<sup>ノ</sup> 門<sup>モン</sup> 松<sup>ソウ</sup> 島<sup>シマ</sup>

王<sup>ワウ</sup> 城<sup>シヤウ</sup> 鬼<sup>キ</sup> 門<sup>モン</sup> 四<sup>シ</sup> 明<sup>メイ</sup> 洞<sup>ドウ</sup> 止<sup>シ</sup> 觀<sup>カン</sup> 海<sup>カイ</sup>

之<sup>ノ</sup> 塔<sup>タク</sup> 一<sup>イツ</sup> 念<sup>ネン</sup> 三<sup>サン</sup> 千<sup>セン</sup> 相<sup>サウ</sup> 輪<sup>リン</sup> 檜<sup>エン</sup>

ハ<sup>ハ</sup> を<sup>ヲ</sup> 之<sup>ノ</sup> 門<sup>モン</sup> 之<sup>ノ</sup> 寺<sup>ジ</sup>

○三<sup>サン</sup> 井<sup>キヤウ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 長<sup>チヤウ</sup> 等<sup>トウ</sup> 山<sup>サン</sup> 園<sup>エン</sup> 城<sup>シヤウ</sup> 寺<sup>ジ</sup>  
近<sup>キン</sup> 江<sup>カウ</sup>

寺<sup>ジ</sup> 門<sup>モン</sup> 晚<sup>ワン</sup> 鐘<sup>シユウ</sup> 之<sup>ノ</sup> 名<sup>ナ</sup> 山<sup>サン</sup> 様<sup>ヤウ</sup>

三<sup>サン</sup> 井<sup>キヤウ</sup> の<sup>ノ</sup> 後<sup>ゴ</sup> あり<sup>アリ</sup> 古<sup>コ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 位<sup>イ</sup> 山<sup>サン</sup>

自<sup>ジ</sup> 志<sup>シ</sup> 賀<sup>カ</sup> の<sup>ノ</sup> 郊<sup>キヤウ</sup>

○法<sup>ホフ</sup> 之<sup>ノ</sup> あり<sup>アリ</sup> 山<sup>サン</sup> 城<sup>シヤウ</sup>

東<sup>トウ</sup> 山<sup>サン</sup> 地<sup>ヂ</sup> 之<sup>ノ</sup> 様<sup>ヤウ</sup> 田<sup>テン</sup> 村<sup>ムラ</sup> 丸<sup>マル</sup>

高<sup>カウ</sup> 野<sup>ヤ</sup> 山<sup>サン</sup> 金<sup>キン</sup> 剛<sup>コウ</sup> 峯<sup>ホウ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 紀<sup>キ</sup> 州<sup>シュウ</sup>

八<sup>ハチ</sup> 葉<sup>ヤ</sup> 峯<sup>ホウ</sup> 微<sup>ミ</sup> 妙<sup>ミヤウ</sup> 橋<sup>キョウ</sup> 蛇<sup>ダ</sup> 柳<sup>リウ</sup>

玉<sup>タマ</sup> 川<sup>カハ</sup> 六<sup>ロク</sup> 玉<sup>タマ</sup> 川<sup>カハ</sup> の<sup>ノ</sup> 内<sup>ナイ</sup> 阿<sup>ア</sup> 伽<sup>カ</sup> 振<sup>シ</sup> 鈴<sup>リン</sup>

巖<sup>イワン</sup> 室<sup>シツ</sup> 谷<sup>コク</sup> 扉<sup>ヒ</sup> 法<sup>ホフ</sup> 之<sup>ノ</sup> 燈<sup>テウ</sup>

之<sup>ノ</sup> 鉢<sup>ハチ</sup> 松<sup>ソウ</sup> 四<sup>シ</sup> 寸<sup>スン</sup> 岩<sup>イワン</sup> 曉<sup>キョウ</sup> 之<sup>ノ</sup> 待<sup>タイ</sup>

之<sup>ノ</sup> 世<sup>セ</sup> の<sup>ノ</sup> 佛<sup>ブツ</sup>

○鞍<sup>アン</sup> 馬<sup>マ</sup> 寺<sup>ジ</sup> 山<sup>サン</sup> 城<sup>シヤウ</sup>



溜橋。僧正谷。番。か。り。

木。好。芽。漬。牛。若。脊。競。石。

鞍馬小判。初寅詣。

○石山寺。近江。

橋。秋の月。待の巻。蛸。

石山の石。天の石。紫式部。

源氏平帖。虫。

○吉野山。金峯山。大和。

金御嶽。橋。国。栖人。

吉野川。釣瓶。鮓。霞。

白。子。妹。脊。山。苔。清水。

蹴拔塔。大。安。年。安。年。入。

○初瀬寺。大和。

古川。お。辺。お。と。り。く。れ。初瀬。

二本秋。橋。紅。い。も。よ。

○法輪寺。山城。

大井川。嵐山。戸。難。瀬。瀧。

吉。お。橋。波。月。橋。鮎。

鹿。花。袋。お。り。山。ふ。

○法見寺。駿河。

三。穂。松。原。法。又。関。天。お。る。

浮。島。系。富。正。風。法。又。く。

関の巻。待の巻。

○天橋立。丹後。

九。世。戸。文。珠。与。謝。海。

内外。濱。磯。清。水。御。燈。松。

○頂。六。寺。攝。津。

あ。木。橋。辨。慶。制。札。



青葉笛 敦盛塔 一谷

鶴越頂六浦 上野庄

磯馴松 塩焼 竹屋

眞火 光原氏 己巳後

松風村雨 何れも次六浦み

天王寺 攝州

難波寺 極樂東門

佛法最初 未來記 樂人

六時堂鐘 山城

仁和寺 御室花見 御影供

眉仍り 廣澤 千代古道

双固 東大寺 大和

奈良大佛 蘭奢待

面向不背玉 眉間小納ト云

良弁杖 大和

法海寺 大和

南多佛舍利 養殿

富小川 二尊院 山城

小倉山 山城

谷の材 林鹿の如 辺付雨

定家山莊 小倉也紙

峯 紅も

大佛殿 方廣寺 山城

耳塚 撞木あき 袴

大佛餅

三十三間堂 蓮華主院 山城



千躰佛。大矢數。芝矢。

○真如堂

鈴聲山。神樂園。鈴虫。

紅毛

○高雄山 神護國祚寺

松下道。谷陰。紅毛。

傳川

○力満 山城

龍女水。時雨櫻。藤。

寒蟬瀧

○壬生寺 山城

大念佛。狂言。面堂。

○ほろろ 山城

嵯峨釋迦堂 赤梅檀像

大念佛。牛華幔。桜。

女之ゆ花。為。虫の如。

鹿。裙。道芝。力。

鈴の聲。駒。大宮人。

狩人。山城

○平等院 宇治 山城

朝日山。小嶋崎。中宿。

遠の里。宇治橋。搞娘。

歎冬願。身のいれり。

後の浮橋。柴舟。川芳。

高芝。釣履。槇の山。

氷魚。綱代。之の間。お。

螢。龜石。通。あ。茶屋。

茶。橋。布。ら。ん。水車。



花園川長。橋より。

ちれし宇治ふ

○空也堂

山城

踊念佛。寒念佛。

神たちも。茶筌堂。

七墓廻り

信濃

○善光寺

日本最初佛。本田善光。

彌生前。更科の月。

姨捨山。孫之孫。

○東福寺

通天橋。紅毛。寺當納。

○開山忌。涅槃像。鹿苑院。金閣寺。山城

天鏡閣。龍門泉。不老石。

渡推橋。鏡湖比。夕佳亭。

○急照院。銀閣寺。山城

東山殿。茶の湯。數寄。

○知日恩院

華頂山。御忌。衣裳鏡。

○本願寺。山城

右。おれ力。御剃刀。戴く。

報恩講。改悔。御相伴。

御文章。戴く。

○興福寺。山階寺。大和

南園堂の藤。八重桜。

泗濱石。花原磬。南大門。



猿澤比の月。依保川の虫。  
四座猿樂。ササの祓  
ちまひささ。りれ角

○當上寺 大和

山供養。中お形。蓮系

曼陀羅。深殿并。尼上嶽

やま 荏山 讃州

○八島寺

内裏治。壇。浦。惣門

おりの夕。次信の墳

○因幡堂 平等寺 山城

天竺佛。其盤小象

橋行平 頂法寺 山城

○六角堂

上宮太子 守本尊

池之坊。立花

○黒谷 紫雲山 山城

一牧起證。熊谷堂

鎧掛松 山城

○百万遍 山城

大名号。松蔭硯

○誓願寺 山城

六字額。和泉式部

軒端梅

○傳宗寺 歌中山 山城

高倉帝陵。小督墓

○関寺 近江



櫻丸。小町石茶の姿

走井。驛路の鈴

○珍皇寺

六道衆。迎心鐘

小砂笠。うお植

○高基ち

櫻。秋。傘の亭

○黄蘗山。万福寺

隠元。木菴。高泉

唐僧来。錦袋圓

唐饅頭

○花のち

あり。房。櫻

外考

○二月堂

午王。着狭井。あそり

○廣隆寺

皇太子。秦川勝。櫻

牛あふ。石燈籠

○多辺野

涼園

○聖樂櫻

うねをの。名をうら

枯れをき。苔の下

形見の衣。身ふしむ秋

化ゆ。あ。おんれえ

りうあし。後のうら







百万の兵と率て戦へ必勝  
攻まば必取らるる韓信か  
三三者ハ人傑ありて吾能  
足以用ゆ前漢書

四傑 唐の王勃。楊炯。盧照  
鄰。駱賓王。みか文  
章は以て天下の名はりし

五絶 虞世南帝ハ此五絶  
と称す一徳行ニ  
忠直三博李四ニ文詞五ニ

書翰 温義兄弟六人功名並  
六龍 温義兄弟六人功名並

千里は照と 臣檀子ハ  
才智千里の遠さとして

八斗の才 曹子建

道學 朱熹一心は以て  
造化の原は窮む

亡書は校ふ 張安世ハ亡  
書ニ益と

一字も遺失とるやかく校へ  
りし帝其才は守として  
尚書公とあり漢書

一は聞て十と知る 論語曰  
孔子子  
復ありふ汝と問とわれうま  
子復日回ハ一とて十は知る

才氣雙を 前漢の李廣  
才氣天下ハ

國士の風り 李陵字公卿  
司馬遷の曰

識度天才 李徳林

滄海の遺珠 唐狄仁傑

當世第一の人 唐李揆

吳中此四士 包融。賀知章。  
張旭。張若虛

卧龍鳳雛 諸葛孔明ハ  
卧龍先生と  
臥龍統は風雛先生と

中林の蘭蕙 吳儼知  
韓愈載礼樂の情は向ふて

中林の蘭蕙ありと

萬里の浪は破る 宗徳  
長風も毎ドて萬里の浪を破る



一字遺ワスも祖堂ハ茶

中書李生ある

一言千萬不賢小賢唐の太宗

臣下魏徵カ諫ハ以テ一言千

万ハ小キ千ニ也リ天下無雙漢黃香

東南の寶褚陶吳人あり

俗世の器景星ハハハハハハ

大鵬の心国瑞

三顧国の杖柱石

奇才真才人龍

明德功と計。国器

義不富

○仙人非人倫ありハハハ

烏龍帝善俊一犬ハハハ

石髓ハ服と王烈大行山

地脈ハ縮公費長房壺

松實ハ服ハ握佳ハハ

走馬のやハ其喰ハハ

三百歳ハ至ス葉高ハハ

後ハ赤鯉ハ乗ハハ

五色の烟の烟氣ハハ

て上下ハ也ハ列仙傳

日月ハ存ハ暮ハ道士

日ハ存ハ額上ハハ

酒ハハハ火ハ救ハ

正朝の會ハ酒ハ得ハ

西蜀ハ向テ也ハ諸人



不敬ありしふ。巴曰臣。本國の  
火災あり。酒を以て。蜀の國より奏すと。火雨は得  
て滅すと。雨中の酒氣あり。  
水は画て路とあり。吳猛

中は擲て槁とあり。崔山

ハ仙女たり。崔山術士のため。追  
捕せらる。甚急あり。遂て山  
より追ふ者。後より川を隔て  
其妻は。是と告ぐ。妻中  
と投て。五屯の橋とあり。度

紙は金とあり。陳允升ハ

塗て火中。投て。銀とあり。

豆は散して婢は得

郭璞ハ小豆三升。散して赤  
衣の人三千は得たり。

石は叱て羊とあり。黄初平

彭祖長壽。歳は歴て專。

補道の術は善と。四十九妻と

喪ひ五十四子は失ふ

一絃の琴。大真王の夫人王母

絃の琴は弾。則百禽飛集ル

時。白龍に乗。四海外周遊

升酒百官は酔む。左慈ハ

一升の酒は。酔んで。曹操の臣下

百友は酔す

壺天蓬海。名利は避

玉は持。空は騰

老を知。雲は空



○高傑 賢人

道德經 老子周の衰はて

去て函谷関に至る

関の令尹喜が曰我為不書与

上下篇に著る

四皓 夏黄公、綺里未子、

角里先生、東園公、

張良

が計は用て漢の二世太子をか

たがふ

一瓢 許由箕山に居るは

吹て時々煩として投去る

三笑 遠法師、陶元亮、陸脩

静をれと虎溪の三笑

松菊主人 常表微

陶淵明の友と

歸去來賦と陶淵明

又五柳先生と号る

烟波釣徒 張志和、湖の辺

に居てみづり

烟波釣徒、又玄直子と号る

池中龍種 龐徳公、晋人の

諸人敬して池

中龍種と号る

香山居士 白居易、意に

文酒に長じて

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四

六十四



テウレヨクヲトフ  
寵辱不敬馬かた。字カヒキ  
鼻

クギウイヘ  
蝸牛の家。芦一本の陰。

心形も身。山小好ぶ。

功ありて身退く。躬席。

おろはる。我酒らく。

食まじ。

○その上人

コトフキ  
壽正上。前漢倪寬傳  
日觴は捧けて

千萬壽正上。

天と壽正亦月元和  
聖徳詩

桃結三千年。西王母桃代  
上。此桃三千年一度花咲

三千年一度實は結ぶ

天小代。唐房杜が賛宰相  
ハ天小代て事と理

陰陽は理ム周勃

而友は正の。オモエ云

朝廷は輔く社稷の臣

禮樂。氏の長者

三公の府。攝家。清華

八省。四職

○武士

千里の威。光武曰賈復八千  
里の威あり

七擒。諸葛孔明孟獲は  
執ふ則つて更ふ

戦む七度。七度唐虜  
とん獲る曰公天威あり

壇は設く。前漢高祖壇と  
設け礼と具へ

韓信は拜く大將軍とん

獨眼龍。李克用ハ武勇の才  
あり威名國中不耀

ちて自獨眼龍と号せ

萬人の敵。張飛と卅の人  
あ人の敵と称る



一身シニ膽キモあり子龍一身シニ

鐵石テツシキの心ココロ。戈ゴや枕マクラもたれ。

威風キフウ。劍ケンと振フルふ。

二君ニクニ小仕コシへん。三德ニホク智仁チニ

孫吳ソンゴと賅クハクふ。六韜ロクトウ三畧サンリョク

胸中ケウチュウの八陣ハチン。忠義チウギ

松マツの標ミササギ

○儒師ニユシ

四聖人セイセイジン 伏犧フクシ。文王モンウ。孔子コウジ

道統ドウトウ相傳サウデン。伏犧フクシ神農シノウ

黃帝ワウテイ堯ヤウ舜ジュン禹ユ湯トウ文モン武ブ王ワウ

孔子コウジ顓孫ジュンソン子思シ子季キ周子シュウジ

程子テイジ朱子シュジ張子テイジ朱子シュジ五禮ゴレイ六樂ロクガク螢雪エイセツの功コウ

史シを讀ヨミ。道ミチを講カウ。淵エンを得ウケ。鸞ラン鳥ニョウ鳳ホウ也ヤ

源淵ゲンエンと得ウケ。鸞ラン鳥ニョウ鳳ホウ也ヤ

○詩人シジン

飯ハン顓カウ山サン 李白ハシカキヤン。飯ハン顓カウ山サン小

詩豪シカウ 白樂天ハクガクテン

海内カイタイの文宗モンソウ 陳子昂チンシヤウ

起承轉合キセイテウカフ。六氣ロクキ筆力ヒツリキョク

風雅フウカの徒ト。孔子コウジ詩シと刪ケツ

筆健ヒツケン。氣豪キカウ。白戰ハクセン

○歌人カジン

和ワかこカの神カミ 人丸ニヒル赤人セキジン

六歌仙ロクカセン 僧正ソウジヤウ遍照ヘンシヤウ喜撰キゼン法師ホフシヤウ

在原ノハラ業平ノノノ小野コノノ小町コマチ 文屋フミヤ康秀ヤウシュウ大伴オホトモ黒主クロヌシ



梨壺五歌仙上東門院侍女

赤染衛門和泉式部紫式部馬内侍伊勢太輔

三代集古今後撰拾遺

八代集十三代集九代集

古今傳授三多三木傳

源氏六帖枕草紙

天地と動鬼神感をも

濱の真砂筆の海

世は治め民は和く道

花のりくと力のいふべ

制の言葉禁忌の詞

月夜のりくと哥なり

枕言もふ

○誹諧師

滑稽事理揮云滑稽言ハ多智圓曲の貌なり

楼姫唇舌 前漢書

談辭舌の如 後漢符融

あひ注如 晋郭象ハ

自娛 懸河の如

誹諧二字傳口授

御傘十六箇條口訣

あぢを傳竟宴

点を 誹諧之連歌

子勺獨吟百韻

七十二候源氏世吉

七十二候源氏世吉



哥仙カセシ。箴之韻セシ。松之韻ソウ。  
雜之發句ザツ。口訣

火ヒ。火ヒ。中ナカ。中ナカ。下シタ。下シタ。置オキ。置オキ。のノ。虫ムシ。哉ヤ。  
湘夕

○醫師イシ

龍宮リウクウ林リン示シ方ハウ。孫思邈ソンシマウ。陰イン。陽ヤウ。通ツウ。凡ファン。於オ。

宮ミヤのノ禁キン方ハウ三サン千セン首シュ以イ得トクたりリ。

國クニ以イ醫イ。凡ファン。國語クニゴ。

骨ホネ以イ刮カクてテ毒ドク以イ去ク。閑ケン羽ウ。

神カミ小コ通ツウ凡ファン。華陀カワ。

百艸ヒャクショウ以イ嘗チヤウ。神農カミノリキ。

藥ヤク以イ採サイ。其シ甚シ。菜サイ以イ訪ホウふ

命メイ八ハチ天テン小コ在イリ。漢高祖カンカウソ。

董仙チュウケン。杏林ケイリン。蘇耽ソタン。橋井キョウイ。

藥ヤク小コ君キミ臣シ左サ使シたりリ。

○伶人レイジン

樂ガクハハ神カミ小コ通ツウ凡ファン。史記シキ。

五ゴ聲セイ。漢書カンショ。五ゴ聲セイハハ宮ミヤ。

八ハチ風フウ以イ節セツ凡ファン。國語クニゴ。

天テン地チ以イ感カン。漢書カンショ。

清平調セイヘイテウのノ詞ジ。李白ライバイ。

霓裳羽衣曲レイショウウイキョク。唐玄宗テウケンシユウ。

太平樂テイヘイラク。昔海波セキカイハ。

五イチュウ常ジョウ樂ラク。竹林樂シヤクイン。

夜半樂ヤハンラク。相夫戀サウブレン。

御覽ミケン。正月十七日シユウゲイナナヒ。

○能ノ左サ支シ

四座シザ。式シキ。三番サンパン。男オトコ多タ。



カクラ 神樂。早。ハヤ。イ。仕。ハヤ。イ。  
松。ハ。ヤ。子。乱。ハ。ヤ。子。乱。  
芬。の。舞。能。狂。言。

○畫師

畫。聖。北。齊。楊。子。華。  
筆。試。誤。牛。氏。王。獻。之。

一揮圓光

吳。道。子。  
丈。山。尺。樹。

遠。人。の。目。を。  
寸。馬。豆。人。

○山伏

胎。金。兩。部。五。智。寶。冠。

竹。條。懸。後。管。笠。竹。笛。

金。剛。杖。本。山。當。山。

強。力。

○相人

隆。準。龍。顏。漢。高。祖。

鳳。姿。日。表。唐。太。祖。公。龍。鳳。  
の。姿。天。日。の。表。衣。

心。以。相。と。運。以。計。

天。眼。鏡。疑。を。決。と。

○卜者

錢。ト。京。房。錢。を。投。て。易。

天。命。以。決。と。史。記。

長。市。の。市。小。賣。ト。司。馬。李。生。

禍。福。以。窮。と。か。う。う。

過。う。う。灰。う。う。口。う。う。

手。の。名。以。え。る。と。墨。之。以。

考。よ。



○農人

稼の字カミナ論語

力ツキ戴イタて鋤スキは荷ニテ子陶詩

苗代ハルタカス喜耕タウ。田植。

麦秋ムキアキ。雨乞クサヒキ。雨乞アミコイ

早乙女ソウトメ。業山子カバシ。引板ヒタ。

○樵夫

○樵夫

薪タキと負ヲて歌諷ウタウタ

前漢シニバイの朱買臣シニバイ薪ヲを賣リて

食ヲ不シ換ス。書ヲ以テ誦シ哥ヲ以テ

祝シ。又妻ヲ我ニ戴シて買臣ヲ

以テ止シて曰ク哥ヲ祝シ也ヲ。買臣曰

臣曰。我ハ年ヲ五十矣ヲ。富

貴ニ至リ。今ハ既ニ四十矣ヲ。妻

去リぬ。其後買臣會。其見大

守トあるヲ及ンで妻耻て自

下ノ下ノの聲陸放翁詩

をカ踏ム。山カスカ幽カあり

巖イハ小チ眠ル。歌諷ウタウタ

山彦ヤマヒコ。斧ヲの音ヲ

○牧童クサカリ

煙エン簑サ雨ウリ笠ツ。東坡トウハ

牛ウシの背セ舂フ子チ安ヤス。東坡

友トモ以テ呼フ笛フエ。牛ウシ小チ眠ル

月ツキ不レ照ス。喜シ風フウ馬ウマ

○漁父

魚イサ父ト



ユキ  
ちり小釣ツ 孤舟ツ 篋ツ 篋ツ 篋ツ 篋ツ  
獨釣寒江雪

煙濤カク 不カク 隱カク 范希文

大釣ヒ と牽ヒ 莊子

蚤の腰レホ 篋コロモ 埴コロモ あコロモ りコロモ 心コロモ

辰シロツ 楼シロツ とシロツ 及シロツ るシロツ いシロツ ゝシロツ 火シロツ

鵜ウ 舟フネ 看サカチ 口サカチ のサカチ 意サカチ

凡カセ 小子 眠フ ル子 船フネ とフネ 扣フネ くフネ

生涯シヤウガイ 一ヨウ 葉ヨウ のフス 船フス 月フス 小フス 卧フス

釣ツリ をタケレ 樂ム

漁釣キヨテウ 周シウ 公カン 好カン 釣カン 太公望ハ

困窮コウキウ 漁釣コウキウ とコウキウ 以コウキウ 周コウキウ とコウキウ 好コウキウ

文王ブンワウ 獵リョウ 小コ 出コ てコ 獲コ 獲コ 獲コ 獲コ

龍リウ 小コ 非ヒ 也コ 虎コ 小コ 非ヒ 也コ 熊コ 小コ 非ヒ 也コ

天下テンカ のコ 輔コ 公コ 孫コ 果コ 然コ 太公望ハ

遇コ 小コ 犬コ 二コ 悅コ てコ 曰コ 我コ 子コ 以コ 望コ

出會コ のコ 者コ 大コ 二コ 敬コ 馬コ 小コ

柳リウ 小コ 倚コ るコ 義コ 事コ 無コ 心コ

名利リョウリ 避ヒ 天テン 陰イン 恨コン 入ニル

○獵人

心ココロ とココロ 一ヒト 獸ビウ 小コ 快コ 唐コ 儉コ 帝コ

鷹タカ 小コ 以コ 臂ヒ 小コ 犬イヌ 以コ 逐コ 逐コ

有ア 匹ヒツ 伯ハク 山サン 鳴ナ 狩カ 狩カ

鷹タカ 小コ 以コ 追ツ 多タ 狩カ

○出獵

獲クハク 麟リン 春秋シュンチウ 曰コト 魯ロ 哀アイ 公コウ

麟リン とリン 得トク 孔子コウジ 是コト 以コト 及コト てコト

春秋シュンチウ 公コウ 書ショ 之コト 心ココロ



富士の牧狩。鹿シカぐり  
やめ。鉦鼓シヤウコのち  
アキヒト

○商賈

賤を販イヤキき貴を賣ツクる  
史記ニ曰呂不韋ハ賤以販イヤキき

陶朱産タウシュび多サシク  
越世家ニ  
陶朱止トシラて天下の化貨物トシラ以交易  
と産トシラび依トシラて千金トシラ以設トシラく

陶朱公トシラと称トシラす  
モツ ツツ 白虎通

玉タマ以食カシラふ桂カシラ以炊カシラく  
戦国策ニ曰ソシ穰ソシ秦ソシは楚ソシ国ソシ北

食シキ貴キは玉タマの如カシラく  
新シニ貴キは  
勝カシラび重カシラて自カシラ心カシラざカシラとカシラ莊カシラ子カシラ

市イチの利リは罔マミとマミ 孟子

○美人ヒメ戀コイれ詞ハコ爰コよ

國色コクシキ 戦国策ニ曰ソシ驪リ姫キ  
一國ソシの選ソシあり

目メと送ソウる 左傳ソウ宋ソウの孔コウ父フ  
嘉カの妻メ美ミ多タク

浴ヨク目メと逆サカて送ソウる  
遠山エンサンの眉メイ 趙飛燕テウヒエン  
玄宗ゲンソウ楊貴妃ヤウキヒ

鮮語センゴの之コト 玄宗ゲンソウ楊貴妃ヤウキヒ  
と共トモに千葉チノハ

の蓮レン以イ賞シヤウん  
翠スイ眉メイ雪セツ肌キ 宋玉賦ソウキキフ

粧シヤウ粉フ施セる 魏ケイ国コク夫人フじんハ  
粧シヤウ粉フ以イてセる

朱唇シュシュン皓齒コウキ 楚辭ソ

蕙ケイ心シン蘭ラン質シヤク 鮑昭賦ボウシヤウ

霧キ影カゲ質シヤク風フウ影カゲ 柳毅リウギ

二五三



西施モウシ毛嬙モウキョウ 莊子曰西施

ある。真六をれを又て你く入るはされびえてちくおんぶ

名に侍シ之シ孫ソ。 多妾メ多ク一ト。

長チカまマらラ。 いりリのノ下カ。

不フあアるル女メ。 子くクおオおオらラふ。

錦ニシキ木キ。 借ぶブのノ神カミ

園ニ寂サビ一ト。 さひヒのノきキづヅふ

私サ言メコト。 ならラ一ト笑ケリ

ワキもモこコのノ妻メ 我妻コト 志のノ處チ

々ホソのノ細ホソ布ヌ 胸ちチらラぬ 限妻メ

後アト士シのノかカるル 子孫ソ 小住コむム虫ムシ

とトよヨひヒあアらラふフ。 下紐シメヒモのノ関セキ

人ヒト目メのノ関セキ 常陸ヒタチ帯ヲビ

花ハナのノ夕ユフ顔カ。 忍びビ之シ席セキ。

岩イハ田タ帯ヲビ。 ゆらラ一ト袖スリーブ。

何ナニもモなナらラぬヌ。 一夜ツヨキ着キ。

袖スリーブのノうウりリ喜ヨキ。 侍うウりリ。

たタらラ形カタをヲまマまマ 琴ひヒ枕マクら。

ひヒまマふフ及キ。 ままマらラ。

志シりリめメ。 あのノ誓チカガヒ文モン書カキ。

萩フキのノ初ハジメ月ツキ。 志のノまマらラ。

袖スリーブあアりリまマまマ。 又もモ及キ。

子コ孫ソもモ及キ不フ足タりリ。 色つツく。

岩イハもモのノおオのノ笑エキリいイとトぬヌ。

いイとトづヅぐグ。 不あアらラぬヌ。

とトつツがガらラいイるル 替替セキ鈴スズひヒ。



とろのたれお 万巻

傾城 遊女

一顧傾城再顧傾國

紅樓 紅樓 紅樓

樂戸 樂戸 樂戸

朱雀の柳 朱雀の柳

大門口 大門口

忘八 忘八

天神 天神

舟 舟

花車 花車

新艘 新艘

居續 居續

牽頭女 牽頭女

遊女 遊女

うのま女 うのま女

流氷の文 流氷の文

口舌 口舌

起證書 起證書

諸証 諸証

店付 店付

辻君 辻君

往來 往來

前漢季子延年賦

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク

カクコ スイハク



歌カのラ妓キ芝居

歌カ見ミセ。糸イト込コ。仕組シクミ。

初ハツ狂言キヤク。二ニのノかりり。

仕合シカヘ。子コかりり。

弓ユミ道具ドウグ。せり上アゲ。

女形メカガ。立役タチヤク

實ジツ惡アリ。敵役テキキ

優ユウ。道外ミチノヘ。子供芝居コドモシバ

操アソビ芝居シバ。場多芝居バタシバ

○相撲スミヒ

大オホ関セキ。関脇セキワキ。小結コムスビ。

前マエ頭カシラ。土俵入ドモウ。四本柱シホンシラ。

行司キヤウジ。四十八子シヤウハチコ。飛入ヒイリ。

○放下師ゲナシ

つる口ツルクチ。浮ウキをキあヨまヨ。

江戸エド茶チヤ。よヨづヅ飯イ。

カケカケ。袴ハカマ。一本竹イツポンチク。

曲持キョクモチ。曲枕マクラ。麒麟キリン

かカつツ。金カナ。備イきキりリ

草木部サウモクノブ

○福喜州フクジュサウ

え日エヒ。初日ハツニチ。小閑コヒラ。

カスミ。あア。玉タマのノまマ。

まマ。初空ハツソラ。

御代ミヨのノまマ。



○梅

氷魂東坡詩。花の魁サキカケ。

桃李ハナは笑ふ。雪骨セツコツ。

羅浮ラフの美酒ユメ。龍城録ニ曰ハク。

酒を飲んで大に酔ふて眠はハ。

淡粧の美人緑衣の童子出ハ。

て歌舞をハ。

糸斛バンコクの香カを儲モツく。洪景

早梅。天下のまふは三ツ。

香カを影カゲし。一枝閑く。

舌の裡ウチの白ハク。第一の春。

小枝コエは進マし。昔カホを尋タふ。

梅ウメ口ヒ和ヨク。野ノの梅ウメ。

梅ウメの凡ヒ。梅ウメ瘿ヤセ。

梅ウメと石イシ。梅ウメと探サグる。

谷の梅。梅と友。おの梅

月の梅。ふは思おもう梅。

香カを暮暮ふ。梅ウメ序キ。

山里六万柔。磁馬古巢チバコノ。

梅ウメ々喜喜ふ。梅ウメ々喜喜ふ。

の川と口のあふ。昔カホの一字。

忘わる形かたちよ。初ハツメ梅ウメや。

昔カホの中なかある。由ユ月ツキあふては。

灰捨ハイ捨セる梅ウメ。日ヒ當あるの。

入いるの梅ウメ。梅ウメ々喜喜ふ。

そらそららの勝かちの。素ス素ス。

紅ベニ梅ウメ。朱唇シュリン。

醉スイ色シキ。漢宮カンキウの粧ヨホヒ。韓駒カンクカ詩



紅白ふ。琴の音遠

○梅の子

渴を止 世説曰魏武帝  
三軍道と失て大に渴  
武帝曰前ふ梅林あり  
後んで耳酸あり足と舎んて  
渴は止むべし士卒足と聞  
て皆口中水津を吐せり

○椿

玉棧の八子代 莊子二曰  
八千歳は

善傘 劉原父詩  
善傘は落ふ

さるのささる 菽原く  
噴の約約 菽原のささる  
白玉のささる

菽原く 菽原の  
きいづく

○柳

陶淵明 あふ五株の柳  
栽るみい

張緒 南史曰齊武  
帝の時柳と  
獻と凡流ふして張緒が火車  
の時ふ似たり

新柳 柳の系  
柳の花

雨ふ似る 柳の凡  
岸の柳 柳うけ

空 系柳  
八九万 系柳  
空で雨ふ

鯉の住所 曲ぬ柳  
曲ぬと曲て







四ツちたの梅のぬ。牡丹好く人も

花をよも。山桜小川  
毛虫子あど 花をよも女

ソノ花

國色は埋む 刘師道

白日静あり。雨打。

花をよも。花をよも

凡ふ飄る。入相の侍

蝴蝶の姿。花の下風

嵐と霞。春のり果

花をよも。花吹入湖

武士も又あふ。嵐ふれ

花のよも日。山ふれ

あるちる花。花をよも

○桃花

天天 詩經 艷陽の質

春色も酔ふ。あひ思ふ

五木の精。百鬼は避す

伏尺の桃の。堪はやと

新うふ去年の。桃の角

○桃の穴

西王母 三千代中

仙果樹も満ッ。暑と避す

○利木花

一株のちる 東坡 千株のちる

香雪 李白 玉容



香はるる。影月  
さるる。你生ヤヨイのさ

月白く

○梨の子ナシノコ

百果ヒャククワの宗ソウ 南史

老子ラウシ共トモ喰クラふ 老子西小  
遊ユウんで大真

玄圃ゲンポ園エン 王讀ワヨクが梨ナシの頌

○山吹ヤマブキ

井子の玉川。岸の山吹。

歎ナゲの願ネガヒ。宇治ウジの焙ヒキ炉ロの  
吹フクでフクはハるルの。山吹ヤマブキの簾簾

○海棠花カイドウケ

眠ネム足タラシくク 楊貴妃傳

花中の仙。春一ハルヒト夏ナツ 東坡

睡スイ起キふカねね 楊萬里傳

石上イソノ小眠コネムる。氣力キリキあ

海棠イヒキの野ノ花ハナ。花ハナを備ヒキう  
悟ツとツ 夜ヨの月ツキ

○御濁ミツ

原平ハラヘイ。山ヤマのノ花ハナ

山ヤマのノつつ下ノ。海ウミ小コ尺シ寸スももや  
夕ツキ日ヒ影カゲ

○沉シム丁テイ花ケ

瑞香ズイカク花ハナ。花ハナ中ナカの瑞ズイ

函コウ小コ。表ヒラ裏ウラ壺ウツ中ナカの

○藤フヂ



勝衣ハカマを着て。蕪火カマドの後の

茶外チャウて宿ヤドか。後のノチの宿ヤドか。

後のノチの足タビは是コトを

○金銭キンゼン花ハナ

他人カレシ笑エミを買カふ 來キ鵬ホウ詩シ

花ハナは得ウケるをカネとカしカるカるカるカ

造化クワシのユ。美ヒ麗レイ

○蕨ワケ

周シウのアサ菜アサはハクのハクのハク

常トコにマるマるマるマるマ

南ナン無ム佛ブツとウ唱ウタへテ。玉タマのユ

○芥カイ

碧ヘキ間カンのアサ菜アサ 菰モ

おヤ人ジのハ信シ。青アヲ泥ドロ坊バウのハ

我ワ事ジとト鯨クワのハ逃ニ

○莖スミレ

法ホウ交カウ場バウのハ垣ケりリ。何ナニのハ氣キも

馬ウマのハ多タきキのハ莖スミレ

益エキをウりリ日ヒのハ莖スミレ

○おの花ウハナ

おウ多タきキ。おウのハ夜ヤ月ツキ友トモ

おウのハ皮カ。おウのハ皮カ



梅子の香。園に梅の  
及び梅

○牡丹 ホタニ

國色天香 唐玄宗帝ハ  
花を賞して  
宴以開く

富貴の相。石の花の王

石金不代。趙飛燕

ちかぢぬ。もふからぬ

笑と帯ふ。あふ人あふ

花あふ。梅。麻あふ。藤ハ  
あふ。梅。あふ。梅。あふ

○芍薬 シヤクヤク

樂天の吟。紅粉の粧

仙家の艶。あふ酔ふ

欄小倚ル。芳姿

異香。薰。ぞと

○杜若 カキツバタ

八橋。あふりの物

起く心。井のまふ

動く心。清く清く

まふ。一八八男

あふ。あふ

あふ。あふ

あふ。あふ

あふ。あふ

あふ。あふ

あふ。あふ

○薔薇 シヤウビ

あふ。あふ



薔薇のちゆ 香譜

買臣帰る 張祐詩

樹とめぐる。風と含む

情よあぶ。爪流の花

○眼击粟花

散る時の心。 まき鳴き  
安さよ 白む本

散降る爪も。六粒を雨小

たのまじ まき

知恵のちる。 ちる人  
人あを足せ あはる

さけり さけり

草の畠

○合歡花

夜合。 合昏  
合昏 ちれし合歡の

分心 分心  
蠟 蠟

百和香。錦を催く

象鷹の雨や。 象鷹  
 象鷹

○三橘

蘇仙が井 蘇仙仙術は得て  
母告て曰 母告て曰

大ニ疲 大ニ疲  
 大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲

大ニ疲



○美人巾ビロシノサウ

刺出シラシして自衛ミナモリ張右史

紅白ベニシロ自文ミナモリす。香カ以ヨ送ツる

○萱クハシ巾サウ

ワシル糸ノ花

宜男モトヲ婦人メノ懐妊マコの時トキの

花ハナを佩ウケるル男ヲをウケるル座マ

仙人セウジンのチ後ノ。忘ワスレ意シ交カウ竹チク

○菖蒲アヤメ

ちや免メ甘アミるル。花ハナちや免メ

あめめノかクらラ。菖蒲アヤメ懺シ

菖蒲アヤメ太刀タチ。みミ尺シのノちチあ

銭ゼン湯タクはハはハあアいイるル

○百合ユリ花ハナ

為タメ朝アサヨリ。たタをヲくクり

天目テンモク百人ヒヤクニヒト。車クルマヨリ

琉球リュウキウ純ジュンヨリ

をヲづツるル小頭コガタ。ちチをヲちチや

ぬヌくクくク。ちチをヲちチや

○苔コケ花ハナ

緑錢リョクセン。石イシ髪カミ。錦キン萍ヒヤウ

閣カク小生コナマシ。陳チン思シ王ワウ

○北キタ評ヒョウのノ花ハナ

生シヤウ事ジ。李リ頰ケツ曰イハレ往ユキくク小コ浮ウ

休キウ日ジツ。杜ト子シ美ミ曰イハレ萍ヒヤウはハ休キウ日ジツ

をヲ枯カれレどド。五イ雜サ俎ノ



誘ふみ。鯨踊る。

虫小作

○風蘭

凡子常ある。花葉る  
喜以運ふ。ち釣  
よはをワケて。  
一柄抄

○石苜蓿

花を吞ノム太祖の后張氏ハ  
梁の武帝と産クん  
四時青。眼ヤシチは青ふ

長生と作る。暑サクは避る  
救スキヤ多至不入。巖イホ小倚ヨる

○葵

羽人の冠鳥。我カ黄  
日カクム傾く。錦キン綉シウ林。

日の道ミチふりあふ。妻メあハくハ志シまマるク  
傾く。里サトのちあふ

○百日紅

紫シ薇ヒ花ハ。夕セキヤウ陽ウと奪ウバふ  
猿スベリ滑ハ。花ハナ爛ラン熾シ  
日ヒは誘サツふ。堂ダウ不カ輝ヤく

又マタしシてモ  
百日紅の詠め

○玉簪花

東南トウナン第一の花。山サン谷コ詩  
花ハナ輝ヒく。凡ソドモ前の者。

○凌ノウ音オン花

花ハナ輝ヒく



古松コノマツ以レ絡ル 本事集

百尺ヒクシヤクの條エタ 白乐天詩

錦ニホ以レ曳ル 昔コトは纏ヒり

屈曲クツキョク。口ク以レ捧ル心ココロ賈カ買カ期キ

を以レ凌ルぐ

○撫ナ子シ

羅ラ之シ綉シも。大オホ偏ヘン以レ

名ナ月ツキ不フ種シま。花ハナ涼ス

交マみレ原ハラの種タネ

○夕ユフ歌カ

み糸イトありレの。白シロ子シ有ル

秋アキハ色イロの歌ウタ。花ハナのハナの

破ヤりテ歌ウタ 窓マダラの穴アナ

○豆マメのノは

空ソラ天アメ不フ白シロふ。米コメつクきキなナむ

豆マメ歌ウタのノまマ。富トモ貴キは 浦ウラ山ヤマは

○蓮ハスのノ花ハナ

花ハナのノ君キミ子シ 周シュウ子シ愛アイ蓮レン説セツ

六ロク郎ロウ不フ似シ 唐タウのノ張チヤウ昌チャウ宗ソウ

揚ヤウ再サイ思シ 日ニチ六ロク郎ロウ不フ似シたりトしシ

西セイ施シ採サイ 李リ自ジカカ吳ウ歌カ

仙セン家カ不フ到トウ 杜ト陽ヤウ編ヘン

白ハクおウをヲ揺ユらカ 替カ替カ

明メイ鏡キヤウとト蓋ガイふ 白ハク乐ラク天テン

語ゴをヲ解ゲとトるル花ハナ 天テン室シヤウ遺イ事ジ







○蘭

國喜九傳魂と召ん

香風は送る。花は白く

花の伽羅一室小葉

蝶の翅ふ。蘭の葉は

○芭蕉

服は着て遊。白尔天

雨小戦く。お雨小鳴る

初秋の風と合ふ。花を巻

凡小開く。夏鳥馬ん

口は蔽ふ。乱れ跳る

朝霧をよほ。鵲の翅

雷小破る。窓暗く

風尾。緑衣開く

舟とあり帆と。お久しかり

あつ風のよき。月の影

何小あれと。目又尺子

○芭蕉

花のうらみ。とかあはれ

盛り久し。傘を鎖をうん

下子の書え。花の眼前の

酒りり知ぬ。云くこのあふ

ゆれとあふ。垣のほの

えぬぬあり。ささるる

○木槿

一日の栄。矢ふも位

馬小喰れり。おそくは







新家の花透。御ユモ  
通ん 去る文の  
つや  
○甘藷 ツタ

松小託も。篋言小蔓ふ  
戸と蔽ふ。甘藷の紅ふ モ三十

ちね小酔ふ。あがん動

山人の壺と枝や余 カハ

かかろりて甘藷え。お宮の  
ちねの塩木 多井小甘

秋の結りの  
甘藷のまね

○菖蒲 タテ

幽花。紅愁菖蒲 モ三十

木の戸ひか。法負の地

木履復ぬく。高宮の  
備ふまきり 雨戸の

○鶏冠花 ニハクハ

紅のま。金風 キンホウ

房のまの。枯のゆ コノユ

○稻 イネ

鴨鹺粒杜甫 五里香 コリノカ

子籾の香。籾の愁 コノウ

鴨蹄の香。籾の香 コノウ

畦及小茶 コノウ

○葡萄 ブドウ

酒の醸 カモ 史記曰大宛國

草龍珠 サウリク 唐の天宝年中

珠の長サ コノウ 長サ コノウ

珠の長サ コノウ 長サ コノウ



柳作らるる。配り初るや  
雨降

○ 芦の花 蘇

新んを摧く 杜甫

房 嶺 淮寧 侯 叔

んこはぐ。田 鶴 あり

まのくまうら  
霧のうら

○ 菊

霜下の傑 老泉詩

歳は延ぶ 魏文帝曰九  
月陽極あり

此月芳菊紛紛とて咲  
是は喰ふは艶は固一齡は

延ぶ  
屈平吟らふ 朝ふ未蘭の  
タア夫秋菊の英は吟らふ

陶淵明菊は摘 九月  
室四の菊をつんで吟らふ  
衣の人酒を送つて共飲んで

陽

あは飲んで 壽

南陽縣ふ耳谷あり谷中のあ  
耳美あり水源ふ大菊あり其

花谷川ありて流れりる谷中  
の人々此水は呑む長壽は

延ぶ  
黄金の花 金玉錢

風霜小茂 劉家菊譜

隠君子。山路の菊。

初やねば待。あさきまじらる。

菊を切らば。ちまや小判  
まじらる。あさきまじらる

房 明く 菊 畑 あり

あく 菊 あり 菊 畑 あり

二百十日し。 葵木結の  
恙あり。 葵木結の

何とあく入らう。 葵木結の  
菊の白き。 葵木結の

日くはてな。 葵木結の  
菊の雨。 葵木結の



白菊の又也。白菊の目も  
ある人も。きり塵  
配ふある菊。起らうは  
きく

菊の香小狐の懐のひ小  
跳す住者 白ひゆ

○推

推の葉も盛る飯

推は拾うて世は後 頼政

久たのむ推の。とり小米も  
おもたり 推が本

○柿

七絶 酉陽雜俎二日一二壽  
四二虫 五三霜 五三霜 五三霜 五三霜

柿書と 好紙を  
多へで柿も多し多し貯へて  
日々小ぢい年久しく貯へて  
朽む

○栗

担公小伝 柿浦さる栗の葉も  
山川や指小 老の人の足はぬ  
栗の葉も古きや  
ははあ 栗とせしる

○荔枝

十八の娘 東坡詩  
荔枝の異名あり

荔枝曲の名 海南より楊貴  
妃も荔枝は進  
む是ふよりて荔枝の名と  
よの日明の如く 天上の味

○松茸

仙家の賜  
初ぬ木の葉は。茸物や鼻の  
へむりつく きんある  
むくくは  
木の葉は上

○紅毛

紅毛

紅毛

○紅毛

紅毛



蜀錦シヨクキンは翻ヒラと 郭功父詩

おねま丹アカ 謝靈運

二月ジケツの花より紅ベニなり 杜詩

おねも凋シむ。おねも際

山ヤマは思オモへ 浦ウラも横ヨコふ 吳融

おねも醉エふ。鹿カの声

あつらひの。凡ツラの吹フく

下シタもみら。まかしくみ

後ノチや際サカイてる。あつらひ

山ヤマくよと包ツツみ。かひけや

血チもる。紅ベニも吹フく

瓜ウリも吹フく。此コノ秋アキも

法ホウおへん。文モン賢ケン我ガと

酒サケのかん。かゝ紅ベニ子コ

山ヤマも茶チ花ハ

ち中の灯チウチュウノトウ

あ仙セン花ハ

黄玉クウウキョク花ハ。氷ヒョウキ肌ミ 山谷詩

香カウ中の仙セン。仙セン骨コツ

香カウの香カウ。白シロき摩マ子の

友トモのりや。人ヒトも入イりて

鏡カガミついで。あつらひの

粉コノカ糖ドウのり。白シロの端ヘ 蝶テフれ子コも白シロい

窓マドは敲ノく。後ノチも破ヤる

散サン乱ラン

翩翩ヒラヒラ

日ヒも舞マふ



凡不動く。飄飄

浮ち小ねの。古比平一日

追く小根と。多まの万小

百年の。宮人よ。我名松也

○松

這鳥棲 後漢書曰方儲ハ

太夫小封 史記曰秦始皇

十八公 腹の丁固と云人松の木

枯れる松又ま 唐の明皇ハ

西小長ト東小向

廣異記曰陳文帝時西域小起

麻子て曰我西去て佛教を傳

指ん長枝あり又一年その

枝忽小流しく東小向ふ子

等の曰吾師よりある

氷霜の操 白樂天

吾下乃傑 陶淵明

子世の老。老松。み松

子口のや。山松。娘小松

みみやう。初緑。松の花

松の子。十返りの松。松凡

松の如。琴引。常盤木

松の木粒。松のさうり

禁中より枯れる松日々

松の如く。肅宗の代

至りて内難公平。唐の祚

興と

西小長ト東小向

廣異記曰陳文帝時西域小起

おろく。美岩ち小於て松の枝

麻子て曰我西去て佛教を傳

女西小長とべし。果して枝西

指ん長枝あり又一年その

枝忽小流しく東小向ふ子

等の曰吾師よりある

て。待ッ案の如く

氷霜の操 白樂天

吾下乃傑 陶淵明

子世の老。老松。み松

子口のや。山松。娘小松

みみやう。初緑。松の花

松の子。十返りの松。松凡

松の如。琴引。常盤木

松の木粒。松のさうり

松の如。琴引。常盤木

松の木粒。松のさうり

松の如。琴引。常盤木

松の木粒。松のさうり

松の如。琴引。常盤木

松の木粒。松のさうり



松の下紅葉。松のさゆ。

玉松が枝。いんどの松五葉の

ちとやある松彌子代見柳

いざりや川。石枝の松伊弉

磯馴松。松のさ拾ふ。淡松

松もむうの友。松根を枕

友あさ松。松のちり

位のはみまじふ。さゆの松も

去隈の松此二木。松の心

里まあむまと。ほのふ松の

松のささり。古もふ

松のささふ。松のささ

木かしの

○竹

龍リウ不フ化ケ。費長房費長房壺公の従

竹チク杖シヤウひヒきて家カふふる竹チクとと龍リウ

七賢シチケン。阮籍阮籍山濤山濤向秀向秀刘伶刘伶

竹溪六逸チクシキ。唐書唐書曰曰李白李白

此君チキ。晋晋の王徽之王徽之字字子猷子猷

君子クニシ。昔昔蕭穎士蕭穎士の竹篇竹篇曰曰君

故人コトビト。李李白白が日日門門ととはは是是故故

湘山シヤウサンの疾シヤク。博物志博物志曰曰舜帝

堯堯の二女二女娥皇娥皇女英女英はは暮暮をを

竹チクとと動動くく是是故故

湘山シヤウサンの疾シヤク。博物志博物志曰曰舜帝

堯堯の二女二女娥皇娥皇女英女英はは暮暮をを

竹チクとと動動くく是是故故



ちて竹と條を班竹と云ふ。遂に  
二人の妃死して湘水の神と  
なり。層の日の種。山谷の曰竹ハ  
辰の日の種ハ  
大ニ繁茂すと

紫竹。香竹。湘妃竹

班竹。あ竹。竹の香

あ竹。あ竹。あ川より

竹の園。親王と竹の林の媛

竹の都。御在所と竹の都

竹の名山。山不折竹の

我友。白乐天。吳竹の烟

竹のあま。吾あ竹

竹の穴と竹のあま。鳳凰

紫の月の竹のあま

竹のあま。竹のあま

○竹

子血宗母不饋。晋書二日

不饋。後母竹好。父の未竹林

入て懶哭と。竹是が。不生

南風吹て竹のあま。山谷

筆は呼て稚子より

キキウ  
氣形部

○鳳凰

白鳳。天智帝の附あま

太平の瑞。揚炯叔

天下安。丹苑山あま

来儀。書經曰。蕭韶九成

来儀。鳳凰来儀







動ん。夜の鶴。子以思ふ。  
丹頭。風不舞ふ。美里心

仙人の驥。落は放ハナツ源頼朝

巧如律小ゆる。二行ふなく。

傳真カガシタ考の烟ナラフとやて傳ツル。

ねと齡ヨハヒは争ふ。鶴ツル睡ぬき

海深アラム

○鸚鵡

雪セツ之の娘ムスメ唐天室年中カ鸚鵡

名ナと名ナ之の娘ムスメと号ナ礼記

能言ヨクモウも飛トビ多タは離リ心ココロと

時樂ラク考カウと和ワ凡ニ五雜俎ニ日

五色の鸚鵡カガシタは歌ウタど能言ヨクモウふ

○風鳥

凡ニ不レ条ノ出デ。巖洞カントウ小コとむ

餅ホシ汁シ喰クだ。凡ニ不レ向ムふて

○鵬

九萬里クニシ搏ハウツ杜詩

大瞻ダイホウの賦フ李白

燕雀エンシヤク心ココロを知チらん

○鸞

雷ライの如ニ小馳ハセ李華

立骨鐵リツコツテツの如ニ杜甫

上ウへえぬ鸞ワシ。燕ツバク畏オソら

就ツク考カウの巢スれ樟クスの枯カ枝エ小

ニハトリ

○雞

函谷関カンコククワン孟嘗君モウシヤウ從者ジュウシャ小令

遂ツ不レ関クワンは助タケき通了ス

舜シユンの徒ト孟子コノ曰ク雞ニ鳴ケルて善

残ノりしたとのを舜ノ



徒形り  
文王安否ハシ問ふハシ礼記ニ  
日々小鷄ニ之ハあハくハ臣ニ稟  
々ニのハ安否ハいハん

夕ニ附リ多ク  
をハ鷄ト。一ニ番ト多ク

有リあリき。多クのハ多ク祿  
有リき。多クがハ祿

八ノ部ノのハ多ク。昔ハ口ニ下リ  
窮ニ闕ト

○百ト千ト多ク。古ハ今ハ三ノ多クの  
中ニ形リ

赤ニぞハぬリ  
○多ク多ク

金ニ之ハ多ク。開元遺事ニ曰唐  
中ニ於テ英皇と又て金之ハ多ク

宛ニ持テたリ多ク。梅ハ枝ハ存リ

多クのハ多クあリき。長ハ刀ハ不ハのハ  
多クと又て多ク

梅ハ枝ハ存リ。あハけハバハ何ハやリ  
多クあリき。梅ハ枝ハ存リ

多クと又て多ク。和ハ分ハ之ハ神ハや  
只ハ多クいハき。月ハ日ハ口ハ金ハ

身ハ以テ逆ニ不ハ。多クのハ曲ハるハ  
初ニ多ク。山ハ里ハ不ハ多クと

多クのハ多クあリき。山ハ里ハ不ハ多クと  
多クのハ多クあリき。山ハ里ハ不ハ多クと

多クのハ多クあリき。山ハ里ハ不ハ多クと  
多クのハ多クあリき。山ハ里ハ不ハ多クと



○雉

者羽唯鳥。子厥<sup>オハラヒ</sup>...

燒<sup>ヤケ</sup>也。維子。蛇々<sup>ヘビ</sup>...

中<sup>ウチ</sup>の柘子や。父母<sup>オヤ</sup>の頬<sup>ヒゲ</sup>...

あ<sup>ツバメ</sup>の<sup>ツバメ</sup>兵子と

○燕

頡<sup>トヒアカリ</sup>之頡<sup>トヒクダリ</sup>之。泥<sup>ドロ</sup>と嚙<sup>ツイム</sup>...

柳<sup>ヤナギ</sup>と度<sup>タビ</sup>り。花<sup>ハナ</sup>は<sup>ハ</sup>穴<sup>アナ</sup>穿<sup>ス</sup>...

秋<sup>アキ</sup>凡<sup>ニ</sup>の客<sup>キヤク</sup>。降<sup>ツル</sup>燕<sup>ツバメ</sup>と<sup>ト</sup>...

五<sup>イ</sup>不<sup>フ</sup>尾<sup>ビ</sup>系<sup>ケイ</sup>。去<sup>ク</sup>年<sup>ネン</sup>此<sup>コノ</sup>巢<sup>ノ</sup>の

か<sup>カ</sup>ろ<sup>ロ</sup>き<sup>キ</sup>巢<sup>ノ</sup>と。胎<sup>イ</sup>子<sup>シ</sup>...

糸<sup>イト</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ふ。傘<sup>カサ</sup>小<sup>コ</sup>時<sup>トキ</sup>

塵<sup>チリ</sup>を<sup>ヲ</sup>...

海面<sup>ウミノ</sup>の虹<sup>ニジ</sup>...

○云雀

形<sup>カタ</sup>き<sup>キ</sup>口<sup>クチ</sup>伏<sup>フス</sup>。...

羽<sup>ハ</sup>り<sup>リ</sup>足<sup>タビ</sup>...

あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>コ</sup>こ<sup>コ</sup>...

帆<sup>フナ</sup>柱<sup>ハしら</sup>の<sup>ノ</sup>せ<sup>セ</sup>み<sup>ミ</sup>。...

さ<sup>サ</sup>を<sup>ヲ</sup>雀<sup>ツバメ</sup>が<sup>ノ</sup>...

○白鳥

御<sup>ミ</sup>傘<sup>カサ</sup>十<sup>ジュウ</sup>六<sup>ロク</sup>ヶ<sup>ケ</sup>條<sup>ジョウ</sup>の<sup>ノ</sup>内<sup>ウチ</sup>。...

○鷺

琴<sup>コト</sup>と<sup>ト</sup>孫<sup>ヒコ</sup>。宇<sup>ウ</sup>曾<sup>ソウ</sup>姫<sup>ヒメ</sup>

雄<sup>ヲ</sup>ハ<sup>ハ</sup>晴<sup>ハレ</sup>と<sup>ト</sup>呼<sup>ヨ</sup>ぶ。雌<sup>メ</sup>ハ<sup>ハ</sup>雨<sup>アメ</sup>と<sup>ト</sup>呼<sup>ヨ</sup>ぶ

て<sup>テ</sup>り<sup>リ</sup>う<sup>ウ</sup>や<sup>ヤ</sup>。...



○<sup>ヨブコトリ</sup>子<sup>コトリ</sup>多<sup>コトリ</sup> 古今三鳥此中あり

春<sup>ハル</sup>ふくも。たつこも  
ま<sup>マ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>山<sup>ヤマ</sup>中<sup>ナカ</sup>

○<sup>コニトリ</sup>駒<sup>コニトリ</sup>鳥

走<sup>ツク</sup>馬<sup>バ</sup>の勢<sup>イキ</sup>。害<sup>ガイ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は

カ<sup>カン</sup>ン<sup>コトリ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は

○<sup>カニコトリ</sup>鳩<sup>カニコトリ</sup>九

う<sup>ウ</sup>た<sup>タ</sup>我<sup>ガ</sup>を<sup>ヲ</sup>。み<sup>ミ</sup>お<sup>オ</sup>六<sup>ロク</sup>お<sup>オ</sup>居<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>  
林<sup>ハヤシ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>せ<sup>セ</sup>よ

出<sup>デ</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>ア</sup>く<sup>ク</sup>け<sup>ケ</sup>も。凡<sup>マン</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>う<sup>ウ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>  
か<sup>カ</sup>ん<sup>カン</sup>去<sup>ク</sup>そ<sup>ソ</sup>う 木<sup>キ</sup>林<sup>リン</sup>の<sup>ノ</sup>キ<sup>キ</sup>ヤ

○<sup>ハトギス</sup>杜<sup>ハトギス</sup>鵲

蜀<sup>シヨク</sup>は<sup>ハ</sup>帝<sup>テイ</sup> 蜀<sup>シヨク</sup>の<sup>ノ</sup>聖<sup>セイ</sup>帝<sup>テイ</sup>臣<sup>シン</sup>下<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>敬<sup>ケイ</sup>靈<sup>レイ</sup>不<sup>フ</sup>位<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。

化<sup>カ</sup>して<sup>シテ</sup>子<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>蜀<sup>シヨク</sup>人<sup>ジン</sup>の<sup>ノ</sup>声<sup>セイ</sup>  
は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>我<sup>ガ</sup>帝<sup>テイ</sup>の<sup>ノ</sup>魂<sup>コン</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>こ<sup>コ</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>

不<sup>フ</sup>如<sup>コト</sup>婦<sup>ト</sup>。杜<sup>ト</sup>宇<sup>ウ</sup> 蜀<sup>シヨク</sup>の<sup>ノ</sup>天<sup>テン</sup>子<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>名<sup>ナ</sup>お<sup>オ</sup>り<sup>ル</sup>  
血<sup>ケツ</sup>ふ<sup>フ</sup>啼<sup>ナド</sup>。一<sup>イチ</sup>声<sup>セイ</sup> 草<sup>クサ</sup>應<sup>オウ</sup>物<sup>モノ</sup>

何<sup>ナニ</sup>が<sup>ガ</sup>の<sup>ノ</sup>多<sup>タ</sup>。力<sup>チカラ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>

後<sup>ノチ</sup>破<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。班<sup>ハン</sup>竹<sup>チク</sup>の<sup>ノ</sup>廟<sup>ボウ</sup>

夕<sup>ユフ</sup>の<sup>ノ</sup>光<sup>ヒカリ</sup>。有<sup>ア</sup>り<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>月<sup>ツキ</sup>

人<sup>ヒト</sup>と<sup>ト</sup>山<sup>ヤマ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup> 山<sup>ヤマ</sup>の<sup>ノ</sup>影<sup>カゲ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>

や<sup>ヤ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>。烟<sup>エン</sup>雨<sup>ウ</sup>の<sup>ノ</sup>村<sup>ムラ</sup>

や<sup>ヤ</sup>あ<sup>ア</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>を<sup>ヲ</sup>恨<sup>ウラム</sup>。待<sup>マツ</sup>て<sup>テ</sup>山<sup>ヤマ</sup>

音<sup>ヨイ</sup>の<sup>ノ</sup>村<sup>ムラ</sup>雨<sup>アメ</sup>。ち<sup>チ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は

う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は。耳<sup>ミミ</sup>ふ<sup>フ</sup>喜<sup>ヨシ</sup>煙<sup>エン</sup>

を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は。大<sup>ダイ</sup>休<sup>キウ</sup>ふ<sup>フ</sup>は

う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>は。ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>

鳥<sup>トリ</sup>賊<sup>ソク</sup>賣<sup>バイ</sup>の<sup>ノ</sup>。ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>指<sup>サシ</sup> 村<sup>ムラ</sup>屋<sup>ヤ</sup>に<sup>ニ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>

人<sup>ヒト</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>。け<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>交<sup>カウ</sup> 交<sup>カウ</sup>の<sup>ノ</sup>交<sup>カウ</sup>

京<sup>キョウ</sup>ふ<sup>フ</sup>は。や<sup>ヤ</sup>り<sup>リ</sup>方<sup>カタ</sup>ふ<sup>フ</sup>

一<sup>イチ</sup>ツ 一<sup>イチ</sup>ツ



山田のふ。つよのふあぬ  
たがつく。月あ  
津の國の玉川。名はついで  
あれどもあつた

云枕の。親の合子ハ  
氣さむ。山名の

うい。その捨子  
うい。あつた

有明の。さふ。あつた  
あつた。人もあつた

あつた。入相の  
角槽の中

然。心。あつた  
わ。代官。あつた

我。あつた。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた

○鷓鴣

五位 近衛帝神泉苑に於て  
震官の勅し路を

あつた。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた

○あ雞

あ雞。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた

あつた。あつた  
あつた。あつた







斜シヤ月ゲツ小コ様ヨコふ。旅リヨ居カン

居カン陣ジン。居カン字ジ

來ライ賓ヒン。編イ子シととふ

たのむの居カリ

書シヨ千セン里リ

サるサはハ喩フム淮クワン南ヌ子ヌ居カン奴ヌ

秋アキのノ味ミのチおおままををおおままををおおままをを

酒サケ賞シヤウありり。一一中チュウてて又又

雨アメ夜ヤのノ一一掃スイ入入

月ツキああるる。花ハナあありり里リ小コ

夜ヤぬぬるる空ソラ。ととららああへへるる

麦麦喰クひひしし。雨アメたたりりやや

今イマややのノ居カン。ああるるををささるる

○鳴ナリ

田タのノおお搔カキ。鴨カモのノおおがが嘴シノ用ヨウわわて

ううささあありり。おおままををささるるのノ

かかくくもも百ヒャクおおかかささるるもも必カナラシ

鴨カモはハ鴨カモああるるここ

鴨カモままはハ。鴨カモ拾シツのノ争マカひひ

○鶉ウツラ

ううりりここ心ココロ。みみいいここここ心ココロ

伊イナナヲヲフフセセトリトリ。古コ今イマニニモモ此ココ

ととああるる。居カンななるる

伊イナナヲヲフフセセトリトリ。古コ今イマニニモモ此ココ

ととああるる。居カンななるる

ととああるる。居カンななるる

ととああるる。居カンななるる



○鶺鴒

首尾は揺尾ウコカ 神代小鶺鴒  
尾は揺尾二神足ヒメ 此鳥は首  
り交てそめて交道の陽ヒメ  
日本記

○鶺鴒

曉シヤ不コ啼ク 杜甫  
侯ハ不ツルホは佔ホ 李白  
魂を断キツ張ケツ復フ之 故宫

曉キ月ケツ不フ啼ク 李白

古城ヒヨトリ不フなく。まねるフ

○鶺鴒

一座カキケは傾ケて笑シヤふ 謝尚シヤ酒  
能ヒヨトリ鶺鴒シヤは座中ヒメ大笑フふ  
四坐シヤの語ゴと效ナヅラふ 幽冥録  
鶺鴒アラム不フ勝マる 五雜俎

○悲羽ヒ平ヘ

夕陽セキヤウと破ヤら 刘玉孟詩  
死シる寒ワウの伴トモ 曹祖詩

蘭若ランテウのうへ。竹チク不フ啼ク

玉樓ギョクロウ不フ巢スふ 李白

魚ウヲと窺ウカふ。苦ク不フなく

○啄木テラツ多キ

枯木コボクは啄ツクむ 文惠公ハシ此コ利トク  
雷公ライコウ啄ツク木キハ雷公ライコウ採サイ藥ヤク吏シの  
菴アンと破ヤら 腹ハラ肌ヒと

○目白メジロ

圃ホ不フ多カキ。目白メジロ推オシふ  
熟ジュク材サイは好カキム

○鶺鴒



柳の芽をむく。都道

云ハのりや  
ヤガラ せちぢん

○山雀

ヒガラ。コカラ。カラ。辛雀

リルミ。老の名も。四十

山うの里  
かせん

○菊戴多

よれ毛。緑眼。尾上の鈴。

庭院函あり  
カスカ

○死者衆多

韓憑心魂憑その妻

人あり。康王足は奪ふ憑ハ

大不怒む王を囚ふ憑み

づら自殺の妻も共不を

投て死を。書とのまてい

預くハ尸は韓氏と合葬セ

しめよ。王怒ッて足は埋む

諸人よば多則韓氏ま塚の

精魂とを。搜神記

狐衛 かし多。破れ

狐と。その子。衛とむ

瓦不化を。魏文帝。瓦地

あて化して。か。あり

か。士の。死。の

死者の。火。達。余

道。余

○鴨

カキ。ハキミシカ。信不戯ル。風陣



毛衣小包で。あふあふ  
ぬるぬる。又てまきとる

遠千写中ハ。有る  
志く依。保つる

鴨の字麻。信の枕小  
歩夜夜麻

浜之小。鴨川の鴨と  
鴨の都。信。録。見

○子多  
脊戸口の入。星雲の園  
又。又

音ま。舟小。舟小  
舟小。舟小

子多。舟小。舟小  
舟小。舟小

お田の玉川。傾く月小  
舟小。舟小

舟小。舟小。舟小  
舟小。舟小

舟小。舟小。舟小  
舟小。舟小

○雁鳥

大鴨。制。孔氏志三曰  
楚の文王

天下の名雁鳥。一人又  
上。上

大。大。大。大  
大。大。大。大

春。春。春。春  
春。春。春。春

多。多。多。多  
多。多。多。多

百。百。百。百  
百。百。百。百

籠。籠。籠。籠  
籠。籠。籠。籠

擲。擲。擲。擲  
擲。擲。擲。擲

設。設。設。設  
設。設。設。設

云。云。云。云  
云。云。云。云



何しや。夜夜

尾婦の鈴。ちるふき

あたり。せろろり

のたぐいねと白尾

死るに様。おきわ  
あかん。なき部を

尾つりけり。夜物の道不  
白尾 引たらしむ

○都名

角田川あつても  
白尾を 京をに川を

あり白きまの此角と足と  
赤きあり八雲抄

きあつて。よきあかん  
都名

いざせし。海苔を  
後儀の報略私。あのかん

馬幅子とさ  
船頭ハカ

○魁

御傘十六條の  
中あり師持り

魁の杖 老人杖ふ刻んで  
魁の形にあり

之枝の礼。寂し  
嘯るふあり

雄ハ情と。惟ハ雨と  
あま

魁の事。魁のそり  
左集ふ 秋のそり

○鶺鴒

喜と報に人間鶺鴒の  
あつてあんとあんと

鶺鴒の指 淮南子ニ曰鳥鶺  
指はあてて徴女

化石印は得り張顯公  
化 俗と見ると則破て金印と厚より

其文ニ曰忠孝侯印



ふけり。の。うらあふ  
抱きあり。望む。後孫

鶺鴒の抱きあり。了る。後孫  
さゆと。教。とく。おれ

○鳥  
不祥多。夜。お。ぶ  
フクロウ

昼眠る。鶺鴒の眠り  
フクロウ  
象よ。ね。あ。き。  
市の。ち。り。り

○鷗  
魚父の伴。教。あ。る。多  
ギョフ。トモ。シツカ

雲。例。ふ。戯。る。李。子。白  
ハル。ス。タカ。ヒ  
床。さ。我。ふ。似。た。り。霜。鷗  
イゴ。コフ。カウ。フ

少。小。睡。る。仲。の。鷗  
イゴ。コフ。カウ。フ  
は。及。の。意。者。と  
信。の。か。と。め

○鷓鴣  
呉王の鼓。呉王夫差の時  
ゴウ。ク。ツ。ミ。コウ。フ。サ

鼓の中より飛出てをふ入  
カウ。エ。セツ。エ  
お。え。心。杜。牧。の。石。出。錫  
カウ。エ。セツ。エ

路。多。お。ね。南。史。諸。小。戯。る  
カウ。エ。セツ。エ  
人。多。少。や。世。間。海。の。り  
ま。の。中。田。植。か

鶺鴒の抱きあり。夜と秋の  
カウ。エ。セツ。エ  
仲。後。り。ち。く。磯。小  
カウ。エ。セツ。エ

けの。鳥。小  
カウ。エ。セツ。エ

○家鷓  
あ。俗。る。足。紅。形。り。  
カウ。エ。セツ。エ

あ。が。破。え。て。お。垣。上。と。  
カウ。エ。セツ。エ  
鶺鴒の抱きあり



○鷓鴣ニホ

鷓鴣カヒツツリの仔ウキスリ。鷓鴣ニホの海

陸ニホの海。鷓鴣ニホの海

○鶺鴒カ

價アタヒ十萬ニシ。傳宗ニシ鶺鴒カの鬪カと

おれニシの毛。おれニシのお

散ニシ乱カ

かゝるニシおれニシおれニシ

○烏カラス

反ハン哺ポ。樵ニシ子カ法カ訓カ小カ夫カ孝カハ

烏カラス夜カ啼カ。李カ自カ孝カ者カ。説カ文カ

鴉ア經キ。東方カ朔カ著カ者カとカ云カあり

楮コのス木ヘ。三ト足コ烏カ。羽ツのカ羽カ

八ヤ咫タ烏カ。伊イ勢セのカ神カ北カ。友ト馬モ

之ニむカ小カ馬カ。稻イ荷カ社カ。朝アやカ夜カ

月ツキ夜カのカ月カ。之ニむカ小カ馬カ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ

子コ山ヤかカ。子コ持テかカ。子コ持テかカ



日経無二  
かきつるもの

○犬鳥

府肉鼠は得る 莊子

飛鳥操 劉禹錫

式者鳴るまの裏

暎天子を初る。天子戻る

魚を捕 陶隱居

翼怪。 狂神健あり

○雀

書を啣 周の武王の附雀

蛤と化凡 季秋の雀あり

王環は報ど 後漢の楊寶

菜島はたえ 竹の毛をたて

一枝は 莊子

燕雀は 志は知ん

菜島は 竹の毛をたて

一枝は 莊子

燕雀は 志は知ん

菜島は 竹の毛をたて

一枝は 莊子

燕雀は 志は知ん

菜島は 竹の毛をたて

一枝は 莊子

燕雀は 志は知ん

菜島は 竹の毛をたて

一枝は 莊子

燕雀は 志は知ん

菜島は 竹の毛をたて

一枝は 莊子

仁獸。 義と抱く

一角五蹄。 五行の精

四獸の靈 麟鳳龜龍の四

其長あり 三百卒ふして



感カニトクセン春秋シュウ作ツク孔子コニ傳デン  
嘉祥。善と知ル。木精

○虎トラ

百ヒャク效コウ震シユ心シン怨オン 司馬遷

眼メ百歩ヒャクの威イ 韓文

風カゼ生ナ谷ヤ嘯セウ 谷ヤ嘯セウ 谷ヤ嘯セウ

雷ライの如カ吼ウ 震シユ怒ド

虎トラを刺サ 下ゲ莊シヤウ子シハハ兩リウ虎コ

頭カシラを擧アゲて城シヤウと尾ビと掉ウツて

旌カサガとある 李賀リカ猛マウ虎コ行コウ

虎トラ即ソクと云イハ。虎トラのふフ竹チクの

○縻バク

その尾ビと心シン地チ

枕マク小コ画カ。邪ジャ氣キ避ヒく。

惡アク除ジュき。善ゼンを需スム。

想ソウまマはハ吟インらラふ

○象ゾウ

又マタ又マタ太守トウシとある 后帳コウ茂モウ

威イ武ブを助タシく 王莽オウマウ

象ゾウの重オモさを量ハカる 魏ヱイ太タイ祖ソ

蒼ソウ舒シュ命メイとて舟フネに象ゾウを入イル

水スイ際サイ刻コク入ニて土ツチを以モて其ソノ數スウを

○熊クマ

逸イツ才サイ 司馬相如シマサウ諫ケン獵リョク書ショ三サン日ニチ

六リク雄シュウ將シヤウ軍クン 宜イ室シツ志シ張チヤウ綏スイの

人ヒトの寝ネて枕マクとて大ダイ熊クマ

男子ナンシの祥シヤウ 詩經シキヤウ



熊ありて六韜曰周の  
文王兆を付て  
太公望は得る師とれ

○馬

八龍 周の穆王天下を巡行  
して八匹の駿馬を  
得て

千里の駒 前漢文帝の時  
千里とせける馬  
を献ぐるものあり詔して日  
前を車馬旗あり後を属車  
あり吉行八日々五十里朕  
千里の馬に乗て獨りや  
て遂に道はの費は与へ  
て馬は去るぞけらる

塞公羽駒 淮南の塞公羽ハ  
馬ははあて  
人間一生の禍福は知

馬鹿 秦の趙高我カ威は  
て馬ありて諸臣威ふか  
るれてこれに従ふ

龍と化と 晋元帝紀曰  
五馬は中とば  
はの一馬化してありある

千里の騅 楚の項羽の駿馬  
軍敗して烏江に至る亭の長  
に向ふて曰われば馬は騅と  
一日は千里向ふ所敵は今ハ  
運つて一足もゆるは是ハ  
よめて女ありふ

老馬 齊の桓公敵は滅し  
ては道と失ふ管仲が曰  
老馬の智は用也一とて  
老馬を放つては馬は遂に  
道と得る

凡そ鳴く 雨は喚  
月毛の駒 竹馬  
云まり駒 競る

十つもの了 驢馬  
心のちぬ 金月の駒

駒のありて 甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡

甲斐の駒 屍屏凡



頭のふたと揮ふ。幸に騎

驥の歩二万。りり約のまふ  
勺の掬あふく 二巻ム

馬の子孫て孫後。馬上小少。  
月ををし 龍尾し

了りて竹田の。了とさへ  
里ヤ 筋のるの

了も餅々ふ。馬のむらぐ  
北

一舌吹ひりえ。了りむけ  
馬の陰 ちこむ

○牛 桃林小牛は放書經

黒牡丹 唐の劉訓公家  
師の富人あり。

牡丹の盛ふ客は招じけり  
ある牛お百あり。客の白ま北  
劉氏の黒牡丹ありけり。

か飼の牛。子試思ふあり

九牛が一毛。己の車三車の  
ハルタがヤス 牛眠る

巢父牛は牽て居る

石牛。老牛

星小七夕。年ももる牛の  
牛小擡 尾のけり

あぐれて居る。牛の糞をむ  
牛の舌 ちちたさ

○羊 龍慈羊と化れ 魏曹操  
忌てまれば殺さん。龍慈は

羊のしれ入る中へ走り入て  
とり小化ると

石小化れ。車小駕と  
羊のちやく。膝と屈と



○鹿

鹿シカ 伍子胥ゴシヨ 空コウ 鹿シカ の姑蘇コソ 臺ダイ 小コ おオ ぶブ ぶブ

白鹿シカ 二百年ニヒヤクニシウネン とト ぶブ ぶブ 化カ 化カ 化カ

玄鹿シカ 五百年ゴヒヤクニシウネン とト ぶブ ぶブ 化カ 化カ 化カ

蒼鹿シカ 一千年イツセンニシウネン とト ぶブ ぶブ 化カ 化カ 化カ

催佛クニシツツ の日ニチ 角カク 角カク 角カク 角カク 角カク 角カク

小男コノヲ 身ミ の身ミ 破カ 破カ 破カ 破カ 破カ 破カ

○狐

狐キツチ 抱カキ 抱カキ 抱カキ 抱カキ 抱カキ 抱カキ

虎トラ の威イ と假カ 戰ケン 國クニ 策サク

九尾

九尾クウビ 白鹿シカ 通ツウ 三サン 日ニチ 德トク 鳥トウ 獸ジュ

婦人フジン の粧シヨウ 比ヒ 比ヒ 比ヒ 比ヒ 比ヒ 比ヒ

官揚カンヤウ リ。狐キツチ の嫁ヨメ 入イリ

狐火キツチ 。百カク 無ム リ

氷ヒョウ の化カ 成セイ 成セイ 成セイ 成セイ 成セイ 成セイ

狐キツチ を夜ヨ 。ぬヌ 狐キツチ

老狐ラウコ 百ヒヤク 年ネン の狐キツチ 八ハチ 美ミ 女メ とト 身ミ

近江チカマ 小コ 狐キツチ の。大ダイ 和ワ 原ハラ 九ク 命メイ

狐キツチ 系ケイ 風フウ 不フ 動ドウ 風フウ 不フ 動ドウ



菊の葉子狐の。子供をば  
確らとまの。きつる。

○狼 フネカミ  
奎星不應を。本中綱目

送る狼。一夜ハヤセ  
狼の厚木子  
のりおのり

○狸 メヌキ  
肢鼓お。八文字狸

侍もきりぬ。春戸ロハ  
古き。人いふ

○鬼 ウサギ  
赤兎王者不徳成受ふ

月魂。月の精。餅搗  
皮と走る。瞬セ

○猿 サル  
子不號ふ。淮南子ニいり  
楚王の臣下養

由射すむ始て弓とさるふ  
及ぶ所猿ハ樹を巡して位  
さるふ

○猿 サル  
竹前と抜く。蜀志ニ曰鄧艾

矢とめれた木のよみ巻底の  
口とよみ。鄧艾嘆じて曰我

物の性。きりふ足ふりて撃  
はあの中不投る

白袁公 シエンコウ  
女と進。此女通じて一老人ふ

一軍猿と化を。周の穆王  
意馬心猿。断腸

有びる猿。雨ふく猿

おら。まこと。ま







犬七しり。多る飛んで  
犬おのぢ。犬けいまつ  
人うしり。梅うまや  
雑ひさく。大山は獵る

○猫

カント  
子コ  
カント  
子ム  
ハナヒヤカ  
鼠と捕。麦飯おぢ  
女三宮。鼻冷

ヒナタ  
鼠を捕。麦飯おぢ  
ヒナタ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

鼠を捕。麦飯おぢ  
鼠を捕。麦飯おぢ

珠と捧ぐ。蔡嘉夫ハハ  
大胤あふはいてある。飯を以  
て足ふふふ退きて鼠ハ  
珠ひさげて恩を謝る

ツキ  
子ツミ  
月の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま

鼠の鼠。足ハ人世のくま



龍

葉公龍と画く葉公龍と画く付ふ天龍なる 莊子ニ曰

魚化と三秦記ニ曰大鯉龍門を登りて化して龍とある

劍化して龍とある晋書曰雷煥が子劍を佩て延平津にたると忽劍躍しての中に入り化して双龍とある

葛陂の杖費長房竹杖は化して蛇とある

老子八龍の如史記

池中の物非ざる 周瑜の

張飛熊虎の將なり

蛟龍雲雨と降る池中の物なり

龍宮の秘方と敵と

續仙傳ニ曰孫思邈は時を

龍王のひきて龍宮の藥方三千道は得たり千金方三千卷

五花樹は食ふ括地志曰山の北方には中ふはなり四方七百里群龍をれふなり五花樹は吟り

八十一鱗鯉ハ三十六鱗あり龍ハ八十一鱗にして六六の數あり乾不用九と云押して用六と云九六の數と降れんを云るの理わり是自然の道理なり

海表變化

雲洛小騰方小駕と

万里一躡天小飛

水と捲淵小居る

凡心と洗ふ天上の身







かゝあるを以て我と活はる  
をらんや。莊子の曰待べし。我西  
紅の水と儼しく女と遠く術の  
日君が信ぢくく。あは早く我と  
枯魚の群ふ。索めし。は志は  
原の印術。紅紫術  
術繪。煮く。ま  
術を又。ぬ  
おのり

○鯉

鎌倉海。とん裡。鯉鱸  
煮取。酒盗。かつね  
目。八。茶。い。あ。人。を  
山。り。た。酔。と。ら。ん  
麦。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て  
徳。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て  
帆。と。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て  
舟。ハ。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て  
か。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て  
ま。あ。ま。て。あ。ま。て。あ。ま。て

○鮭

鹽引。于鮭。鮠

空也の渡

琵琶湖。夜臺あり

無雨あり

○鯽

とん裡。歳末の賜

術のさ。術のさ

○鮓

田圃。入て。芋。以。術。術

燗壺。マ。あ。あ。あ

○王餘魚  
比目。比目。比目。比目











放一亀。瀛龜。

さくく。甲子小龜。運動之。出て来て

○敵龜。スツホンイリ。芥子以忌。敵龜者火

蚊と畏る。苗代あつ。蛙つて

○蟹。カニ。カトガニ。シムラカニ。魚。鬼魚。平家蟹

接走ら。芦向の蟹。及小の蟹。まねの蟹

○鮫。アハヒ。真珠。乾鮫。長鮫

○辰虫。ハニダリ

氣吐。樓臺とあら

○鴨の喙。ハサム。戦國策二曰

の時。燕代公燕の為。不趙の惠。王不説て曰。蛤出て曝る。鴨

其肉と喰ふ。蛤合て喙とこ。さむ。鴨の曰。今日雨ふ。明日

雨ふ。む。今。則。蛤死。鴨。鴨不。向。て。曰。今。蛤。出。明日。出。必。鴨。死。ス。論。多。内。僕。父

一手。み。て。双方。以。捕。ふ。辰。虫。樓。雉。化。し。て。蟹。を。珠。以。出。ん。書。經。月。と。吸

蛤の二貝。ふ。ち。け。や。割。れ。り。蛤。い。ん

○蜆。シミ

勇田蜆。む。と。蜆。石。一。ツ。蜆。蜆。の。頂



○蛇

八岐大蛇 素戔嗚尊ハ  
尾の中五ツの釵切り天叢雲劍

南門小鬮 丸傳

白蛇と斬 漢高祖

常山の蛇 孫子

龍と化ん 珠と嚙

蚘蛇 螞蟥蛇 蝮蛇

天蛇 黄領蛇

烏蛇 白花蛇

○蟹

三起 荀子蚕賦三起必俯

原蚕 山繭

八月五日 山芋子花

天蚕 山芋子花

○守宮

いそりの下 朱以て守宮

小筆 文合のりり

なげき 哥林良材

○蝶

海子ガ後 香子偷

口氣小戯 胡蝶

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

蝶のふれむり 我友

○蛙

花あまの 世捨角



井出の蛙。蛙合戦

ふよむ。井夜の蛙

夏夜驚ん。夕暮の蛙

古比や。まじりの家

かゝ井戸へ。蓮はふ

ふはいて。日や田

ふやう。蛙はく

○中

似我情。来の虫は子以て

我子の。花の糧

花を堂て蜜とん

ふみ臨ム。腰液

今をを。花吸

たのむ。花の

○蚯蚓

哥女。千人踏

蚯蚓の火。泥を喰らふ

長く吟を。蚯蚓堀

○蟻

千丈の堤は壊さ。韓子

羶と慕ふ。莊子

蟻の性。蟻の家。羽蟻

陣を列ぬ。夕立小走り

○蚊

層を嚼く。莊子

長喙細身。蚊ら

春。蚊も火。雷とあ

蚊も火。我は布と蚊の



夏のそと傘の。蚊の腹で  
くろく小鳴蚊 燈小とす  
後小飽蚊も 蚊と殺れ  
つるんりし 中はおぼろ  
寝蚊が国の 蚊のあは  
さくめまき 秋のん  
蚊をとり 蚊柱小夏の  
そののあう うれし  
蚊をつつ 蚊小たてく  
方小老おろ 屍もぞだ  
我身

○蝙蝠

古き小まむ。蚊と喰ふ  
夕暮る小あふ。山椒と好ム  
冬あきと卿を。字はのほろ  
冬の小王しある。一はさう  
蝙蝠あふ。蚊と捨る  
秋のうれ。一しとれ

○燃虫

書白を照らす 車胤の家貧  
宿のふくろを以て 螢火のりそ  
書は照らす 宋祁詩  
數星流 宋祁詩  
螢火九 軍中ふ白刃と辟  
もは盗賊と除く  
腐草化して 螢とある  
螢狩。螢見 風前  
柴舟小あはれて 悲しく  
率都の方と。螢見と松小  
火とあふ中。蚊のふも  
火とあふ 昔のふも  
舟頭醉ふ。螢のふも  
志月し。螢も木も  
吹さるる。田の豆  
蚊の周。つるひり



育の万ハ登不。小學の  
私ヲ 馬をふせり

○蜘蛛

蜘蛛の振衣 衣通姫

百虫と食に 梅聖愈詩

集て百事吉 陸賈

土蜘蛛 頼光とれ小惱む名

のれ土蜘蛛と亡に蜘蛛切丸の  
名にしする

蜘蛛の巣不。蜘蛛の巣を  
よるもの。蜘蛛の巣あり

○蚤

蚤と避了 五月五日午の時不  
石菖蒲とて

晒し乾し細末し。蓆の下不  
放り蚤永くか

○犒牛

犒牛 莊子ニ曰犒角の尤不  
縊觸 國あり蚤氏とて

右と觸氏とてと地と争して  
蚤

角ぬり分た。おかふせり  
次廣の石 柱

之月雨ふ。我むしふ  
家あり捨てつうしたる

寶し小犒牛。豆むり  
角はたたく 梅うか

○擗

擗 王思性急  
劍抜て逐ふあり擗

て拳頭ふり追ひき後  
来ふ王思大に怒て擗抜

劍とぬいてちれと逐ふ

音衣童子 蠅化して童子  
酒盃小弱ル 早蠅あり神

擗の子れ兄ふ。後れ  
擗ありと 木曾の擗

富士の名。擗とあり  
擗ハ何をふ 韓退之



蠅の子に憎まれて  
たたくあつらふ人

○蟬

齊王の后ハ王を  
怨て死と尸化  
し故に蟬以齊

女ト名づく  
五徳蟬ト又使り頭上小

令之を食ひ飲ハはあり天の  
稷はうひさると靡形魚果小

居るはるの儉形使不應て  
多信形

断續の聲 文徵明詩

死ぬ。涼しうや  
山京志之込

馬と動く  
竹小撐か

一日はあつらふ  
推の木と。木悪む

持て動く

○蛾

友の虫れ火入。燭と撲

焰小觸々。光小信々

燈と滅と

○蟬

出なむ失ふ。小抑々  
輪の中。車百合

存る小死ぬ  
枯也

○蜻蛉

あふ小點れ 杜甫

風と逐ふ。日ハ涼く

けりつと。休んてあふ  
一葉はる



○ 蚕 キリクス

秋を悲しむ。夜は静か  
閑ある夜。月冷し  
白雲ゆく。床ふきて  
枕をく。新入  
桶の漏るて。古城や  
鳴止む。草の生る  
まじ月小。燈を添て  
蟹とまき。鳴小く

○ 松虫 マツムシ

松虫と通る。松虫小瓶を  
注ぐ。あく。又友人と  
おる。あく。ちろくあ  
んふ吹か。アんとあ

○ 竈馬 イナゴ

今年寂し。後土の家が  
りあ。あ。あ。あ。あ

○ 鈴虫 スズムシ

驛路の暮。風ある夜  
秋寂し。アんとあ

盆まで音聞

○ 鑢虫 クワムシ

軍馬の暮。婦懶と  
驚え

○ 風 カゼ

○ 蓑虫 ミノムシ  
嫩葉の喰ふ。又戀  
木のよふい家

○ 機織 ハタオリ

客心に動け。東壁小  
秋思ひ生る。月小位  
あぢくやのあ



○冬蝮 イナギ

獺の毛を飲。草休一

○子子 ホウクリムシ

一曲一直。腐水小生

蚊小化ん

○風 シラミ

虱と除く法。小方のを氣に  
と噴て致深淵黙漆の字  
は床帳の中かひたちりく  
去ル

器賤部 キガイノブ

○七寶 シツホウ

金銀琉璃 琺瑯

瑪瑙 玻璃 眞珠

○金 キン 金ハ惣名小ナリ五也  
り黄金以長とん

久しく鍛中埋火と朽  
石たび鍛も輕か

金 黄金 銀 白金 赤金

鐵 黒金 鉛 青金

黄金 醜水 生ん 韓子

金一餅 列子ニ曰羊子ハ

妻の曰君子ハ利を以て行故  
去ん羊子大不軌て金と棄つ

赤虹 金と化ん 搜袖記

孔子春秋以倍を孝經以

制名れ孔子小斗小向して  
天小告す時不赤如りれ忽然

黄金始て出 陸奥より始て  
天平勝宝元年

○銀 シロガ子

陸奥より始て







木閩ふ 礼記三曰玉ハ山小にして諸木以閩之

温閩 礼記三曰君子ハ徳以玉示比凡温閩者民と安んず

五徳。六瑞。卞和玉

連城壁

○銭

唐の穆王のころは蝶小信凡 禁中ノ夜花開く是ハ叔万の操ミハある

官人網と張ッて是は皆る遅明ハスル也庫中の銭あり

葉と援んで銭と凡 軒轅先生林示中ノちかて相竹のよみハ人でもハ備ハる妻

銭と形も 孔方。鵝眼。子母銭

駒引銭。大黒銭。蛭子銭

題目銭。半兩。五珠

○鏡

八咫鏡 日本記

鸚鳥舞 昔多ハ鏡ハ向ハ悲啼しと音倒

膽以照之 秦始皇一ツの膽を照アると邪心ハるも是

小向ハ胆張心動をも 山名のかつれ鏡。十寸鏡

姿良。和紙後。み鏡

○笏

玉以て凡 礼記ニ曰天子ハ珠玉以て一諸侯ハ象牙牙以て

蛇以て凡 宋書



狂賊キヤウタクにウツ撃ツク

○冠カウラリ

紫冠シノハシ。白雉シロトビ五年ニ鎌足カササキの臣シノ不賜コトく

金巾子キンキン。うわかつり

まじらひの冠カウラリ

○琴コト

琴コト破ワレ。晋シン戴逵タイタイ少シヤウ以イて

破ワレ。武ブ陵リヤウ王ワウ人ニ以イて是コトを

断タン琴キンの文モン。弓キウ六ロク張シャウ

伯牙ハクカがカ妙ミヤウ子シ。吳ウ姬キがカ奇キ声シヤウ

○琵琶ヒバ

玄ケン上ジヤウ牧マク馬バ。博ハク雅カ三サン位イ是コト以イて

平テイ經キヤウ盛セイ。竹チク生シヤウ為ニ於ニ於ニ孫ソク

四シツツのノ緒ヨ。平テイ家カのノ緒ヨ

琵琶ヒバにニ懷イダク。心ココロとト娛タシムむ

○之シ線セン

二ニ上ジョウリリ。之シ下ゲリリ。ササハハリ

長チヤウきキ。短タンきキ。澳オク笛フエ

合アヒのノ子シ。曲キョク之シ線セン

○笙シヤウ

別ヘツ鶴クハク。王ワウ虞ユ笙シヤウ賦ヒ

彩サイ鳳ホウ。李リ白ハク笙シヤウ篇ペン

風フウ聲セイ。月ゲツ下ゲ。信シヤウ音オン。妙ミヤウ曲キョク

○篳ヒツ篋キヤウ

胡コ樂カク。角カク音オン。漢カン庭テイ



○笛

水龍鳴スイリウウナク馬融長バジュウチウ笛賦フエノチ

一聲秋月セイエイアキノツキ以白ウツクハシ劉禹錫リウウキツ

清哀セイアイ奇寶キホウ龍鳴リウウ

臭噴ウツクハシ石と裂イシトワレ牧笛ボクテキ

折楊柳セツヤウリウ落梅花ラクバイクハ曲の名クノナ

大水龍ダイスイリウ小水龍コスイリウ青葉アヲバ

海人燒殘アノタキワレ蛇進ビヤウシ蟬折セミワレ

内裏丸ダイリニル赤疵丸アカシマニル餅の野モチノノ

○尺八

虛無僧コトニム梵論ハツロ々々

本則ホノノリ普化フケ禪師ゼンシ

天蓋テンカイ伊達袋イダテフクロ

一重切ヒトヨキリ十八曲ジウハチク哥口カク

戀慕返レレボカヘ鶴ツルの巢籠スゴモリ

○鼓

白鶴鳴シラツクナク鷺サキと棲スム

花柳クハリウ以催モヨウ元遺事ゲンイジ

初音ハツネの鼓ツツミ紫調ムラサキテイ

淺黃調アサギニラベ

○太鼓

春雷ハルライの如ノトシ東坡トウポ

夔鼓キコ聖鼓セイコ石鼓セキコ

樂太鼓ガクタイコ陣太鼓チンダイコ

○磬

磬ケイ



泗濱の友。鷺鳥舞々  
水上の金。瓊拊瓊堯の樂人

○鐘

鯨カネの發カネと。張衡西京賦

兩樂周禮曰龜氏鐘以鑄是と銑

百里不聞漢官儀

黃鐘調。遠寺

月澄霜夜

夢と驚夢と驚馬と。多ささ

晚鐘。おちの鐘

床の鐘。ゆり鐘

つづの鐘。入相

尾上鐘。夕ぐれのこ

よりりのこ

○劔

草薙劔。小鷓丸

干將莫耶劔吳越春秋曰干將莫耶

三尺漢高祖三尺此劔は提て天下と伝む

玉切周穆王

萬人の敵項羽劔と受て曰萬人の敵

字ふ不足凡萬人の敵は字

秋のまね劔。霜の劔

○弓矢

養由基柳の葉は射す石

石と射楚は熊渠子夜寝石の伏撃を以て

天鹿兒弓。天羽羽矢

桑弧蓬矢。破甕弓



強弓 鎮西八郎 扇的 那重三  
大矢數 和佐十郎八郎

○旗

四獸 前朱雀 後玄武  
錦の旗。白旗。赤旗

旗頭。日小映。旗持

三軍松引

○甲

龍頭。鍬形。天衝

半月。鞆

○鎧

緋緘。小櫻緘。卯花緘

モヨキニホヒ。今キスツユ。紫裳紅。  
著長。腹巻。甲裳

○鐵砲

砲石。天墜砲。地雷火

種ヶ島。火笠。狼煙

花火。星降

○鞭

珊瑚と飾。天と指と

一鞭 百萬の雄兵 指揮ふる

後らるる。花と穿

柳と拂

○扇

芭蕉扇。孔雀扇

ハセウ。孔雀扇



五明扇コノハ九華扇キウカハ

白羽扇ハクウセン舞扇マイアキ陣扇チンセン

檜扇ヒノ末廣扇スエヒロ

秋扇アキ扇置ヲク扇打ウチ

舞や者の骨と。淨凡や  
手布女

○硯スリ

鐵テツ鑄シ五代史

孔子コノミ廟ミヤ魯國孔子の廟中不レ

馬肝石バカンシ漢武帝カンキ洗硯センケン

虎班石コウバンシ紅絲石コウシシ

○筆フデ

狸毛象管ネコモノゾウカン歐陽通ハエウヤウトウハ

以て筆と管又象尾を

用ゆ是ふらゝしむてわめて書

四筵シエと敬馬ケイバ杜子美トシケミ

石筆シシツ燒筆ヤキフデ命毛メイモウ

筆架ヒツカ右馬筆ウマヒツ筆威ヒツキ

筆陣ヒツチン雪山凌ユキヤマノリ月と揮ツキトヒ

みづらきの江。筆の江

○墨スミ

朱鹿射シュロカと合ツグ墨スミ合アヒ

真珠マユ一兩鹿射イツラウロカ香羊兩細未カウヤウニホコ

益ヒトクありキツ買人カヒト葛洪カキコウ

薪シキ以キツ伐キて買人カヒト葛洪カキコウ

○紙カミ



雲藍紙。桃花紙。  
唐紙。檀紙。奉書。竹紙。  
抄系。閃刀紙。漆漉。

○香

蘭奢待。紅塵。  
鷓鴣班。薔薇水。  
返魂香。之也。舊。

柴舟

炷合。連理。香道の口傳。

○園碁

夏を忘。晋書。兵と用法。  
冷暖王子。玉其名局より冷暖  
冬ハ暖のりく及冷あり  
之陣。伐木のる  
意云老人。本因坊

○象戯

橘隠仙。巴園の大橋以割  
あり相向て象戯を  
策以運を。陣圖  
沉思。危以防く

○雙友陸

朱三朱四。唐玄宗三四の  
忽あ。是。小。て。五位を  
朱三朱四。朱四。ひ。う。人

○蹴鞠

上下回旋。唐詩

遠を臨。身を側

高低。四本掛。楓。松。柳

○投壺

投壺



矢と傲ヤを漢武帝の時郭舍人是を

晋候宴レ九傳レ

古禮。矢踊ヤ。雅歌ガカ

○枕シラ

七寶枕ホウ織女の枕あり

琥珀枕コハク宋武帝の時献す

耶郢枕カシタン枕と高ト

古き枕。袖枕タキ。膝枕ネ

新枕ニイ。苔の枕コケ。礮枕イシ

岩枕イハ。籠枕カゴ。長枕ナカ

草枕クサ。子枕コ。吹りまくク

楫枕カチ。信枕ナシ。枕時計シラトケイ

○屏風ヒヤウフ

虹霓屏コウレイ唐玄宗帝美人の形ときざむ

石屏風。玉屏風

紙屏。枕屏風

○簾スダレ

水晶簾スイセイ。玳瑁簾ダイモウ

朱簾シュ。玉簾タマ

御簾ミ。繪エ。青簾アヲスダレ

月ツキ。揺ウゴク。風カゼ。石イシ

猫戲ネコ。玉タマ。石イシ

○笠カサ

傘カサと假カ孔子途中孔子途中

是レと求ム孔子の曰孔子の曰商人商人

市目笠イチメカサ。衣笠イカサ。厚小笠コサ



初らざる。朽木筵。編筵  
熊谷筵。さら筵。老の筵  
我老とて。玄甘清上人  
筵の文後

○蓑  
緑衣。霜と鋪。老の蓑  
有少郎と。厚い蓑  
蓑とて家不入忌  
イム果記

○杖  
國の杖。家の杖。杖の杖  
藜の杖。老と助。卯杖  
杖の杖。千歳の杖  
杖の杖。親の杖  
杖の杖。果の杖

○釣竿  
釣と失くす 日本記  
酔て蘆花小卧 李自詩  
の事無心。柳岸

○機  
子母機を断 孟子の母ハ  
其機を断切て曰子と字と  
玉指と芳んセ夕歌  
窓前。扱のまる。くれえ  
りえ。寒機織

○砧  
寒衣と搗 文選  
空外のる 杜詩



殘夢と喚びし 周詩

杵重し 故郷の心

酒醒る 夢を破る

聲寒し 国情

凡ふちり 灯 糸戸の砧

誰家 月夜

千聲万聲 坊々あそ

猿の 小袖の砧 秋舟あそ

京の遠き 採菱

○篳篥 桃坐 晝寝

竹席 夕卧 納涼 暑と避

瓜と招く

○瓢

風吹て聲なり 許由

一瓢の樂 酒と賸る

鉢たたく 鉢押す

海を接ふ 梅小提

○車

鸞鳥車 八葉車

七香車 御所車

駟馬車 指南車

鹿角車 螳螂介

おん車 忍々の夜

七車 小車 破り車

榻小石 夜通り人



○舟

龍舟リウシュウ鷓首セウシウ。蘭舟ランシュウ。  
桂カウラの揖カチ。雲クモの帆ホ。  
風トモツチの纜ハンレイ。范蠡ハンレイの舟。  
一ホ帆千里。月ツキを誘ワッく。  
岸キレウゴ揺ユクく。潮シホ小コいり。  
月ツキを載ノセて行ユクく。一ヨウ葉エフ。  
いさり舟イサリフネ。天アマの岩イハ舟フネ。  
ぬまヌマ舟フネ。夜ヨ舟フネ。  
百モ、フチ舟千舟イツチフチ。又イツチフチ舟フネ。  
舟フネ人ヒト。月ツキの夜ヨ舟フネ。  
妻ツメ呼ヨぶ舟フネ七セ夕タ舟フネ。  
輕ケイ舟フネ。楫カヌエ枕クシ。かカくク櫓ロ。

○衣

むすムスとるトル。舟フネをツクつツクまマく。  
月ツキ小コ衆シュウと。樓ロウ船セン。  
竹トクもる雨アメ。管ケ使ヒるル力チカラ。  
波ナミ舟フネ。真マコト帆ホ斤カチ帆ホ。  
碇イカリちろと。舟フネ長ナガ。舟フネ玉タマ。  
權カチのシツク。後カヒ岸カンのカシメ。  
千里チリのチリ。蒼サウ後カイ。  
船頭フナトウ碎クサレて。香カウ舟フネ小コ。  
ちチ不フつツふフのノ婦メ入イ。

衣食部

○衣

欄衫ランサン。儒者ニウシャのカ。  
服フクあり。褐カフ。道士トウシの  
服フクあり。



衮衣コンエの服天子 狐白裘キツ子ノカハコロモ

云裾クモノモスソ 風カセの袂ツモト

鶴クシ毳ヒキ 紫ムラサキ以ヒシク曳

月ツキのツキ花ハナ 志シのシひり

山ヤマササ藍アヲのアヲ袖スリーブ 厚アヲ小コ心ココロ

紫ムラサキのムラサキ袖スリーブよりヨリ心ココロ 急イサ小コ用ヨウ

秋アキよりヨリ心ココロ 小コ忌イミ心ココロ

あアつツほホのノ心ココロ 毛モウのノ心ココロ

林リン心ココロ

山ヤマ名ナのノ初ハツメ心ココロ 紫ムラサキのノ心ココロ 四位シイ上ジョウ

小コ夜ヤ心ココロ 桂ケイ心ココロ

五イ百ハタ機キマ心ココロ 七シタ袖スリーブ枕マクラ

草クサ心ココロ 浪ナミのノ心ココロ

草クサ心ココロ 浪ナミのノ心ココロ

錦ニシキ

錦キン纜ラン 隋ズイ煬リョウ帝テイ龍リウ舟シュウ以イ造ゾウ

文ブン龍リウ錦キン 魏グエイ志シ

志シ地チのノ錦キン 夜ヤのノ心ココロ

故コ卿ケイのノ錦キン 朱シュ買バイ臣シン

まマのノ錦キン 紅ベニのノ錦キン

布フ

々ククのノ細ホソ布ヌメ てテこコ布フ

木キ曾ソウのノ麻マ布ヌメ ことコトたタのノ布フ

てテつツらラりリ ちチらラ布フ

帯オビ

蒼ソウ玉ギョク佩ハイ 魚イサとト多タ々タタ

花ハナ田タ帯オビ 常ジョウ陸リク帯オビ



井の下の茶。之を茶  
岩田茶。石の茶  
まきの下茶。かけ茶  
菊の花茶。紫の茶  
紫の茶

○酒

聖人 色着て味ひ重  
賢人 色金みて酔く若  
飲中八仙歌 杜甫  
竹葉春 梨花春  
千日酔い 劉玄石  
葡萄酒 竹の酒  
あらしきけ 龍の枕  
さびの酒 富士見酒

保命酒  
美林酒  
三年酒  
中酌

○餅

湯餅 東坡詩  
炊餅 陸放翁  
餅饅頭 若餅  
鏡餅 善哉餅  
金頭餅 雪餅  
大佛餅 牡丹餅

○茶

雷鳴茶 蜀雅州の山中  
所と醒と



愁ウイ トクと解ワシ。七ワシ椀ワシ  
 茶サロニ論アラハスと著アラハス 陸羽アサヒヤ  
 初ウスじりキヤ。濃コイ茶キヤ  
 薄ウス茶キヤ。山ヤニ吹フキ。朝アサ日ヒ山ヤマ  
 喜キ撰セン。信シ樂ガ茶キヤ  
 唐タウ茶キヤ。梅ウメ茶キヤ  
 新シン茶キヤ。茶サ店テン  
 眠ミとサ覺サミ

俳諧早作傳大尾

身ミ王ウ族シ子シ孫ソ  
 人ヒト風カゼ花ハナ雪ユキ月ツキ以ヨリ  
 其ソノ情ナリ韻リ影カゲ連ツ絶ト  
 以ヨリ是レ也ナリ初ハジメ學マカ  
 保ホ名ナ最トモ其ノ情ナリ也ナリ  
 苗コノ心ココロ熱アツク露ツキ多シク佳シ  
 如ス形カタチ梅ウメ空カラ何ナニ口クチ



予乞食於里之

孫離潛早作

穉之此言也通

素事干謁且

萬物皆於之

辭一終自矣矣

後居之此學之

後身語中後其

終之尔

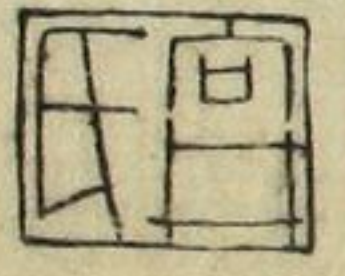
安永五申季

故去來之胤

平安

在柿舍

去來





安永五<sup>丙</sup>申年九月

京三條通車屋町角

村上勘兵衛

同寺町通押小路町

野田治兵衛

同寺町通五條上町

田中庄兵衛

同町

吉野屋為八

書林

藤井可安



